

令和7年度

成田山文化財団年報

第17号

成田山仏教図書館
成田山靈光館
成田山書道美術館

目次

成田山仏教図書館 1

概要

令和7年度事業報告

令和8年度事業予定

寄贈図書・資料

調査報告

石川照勤上人著作目録 飛田 敏秀

成田山靈光館 14

概要

令和7年度の活動

収蔵資料・利用状況

博物館実習・寄贈図書

令和8年度の展示予定

研究報告

石川照勤宛与謝野寛書簡 矢嶋 毅之

歌川国貞筆「成田山棟揚図」の開板について 猪岡 萌菜

成田山書道美術館 22

概要

令和7年度事業報告

展示事業・展示要旨・入館者数・普及事業

収蔵資料・寄贈作品資料・貸出作品・寄贈図書

令和8年度事業予定

寄付金のお願ひ

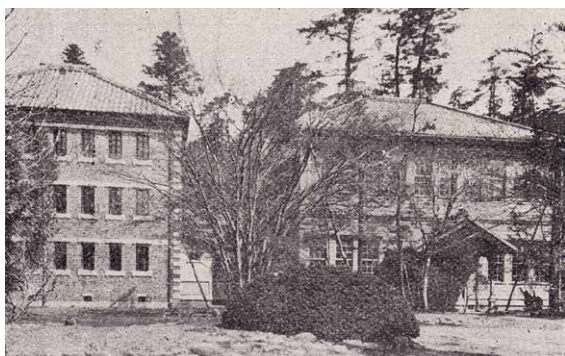
案内図・利用案内 35

成田山仏教図書館

概要

当館は、成田山中興第15世貫首石川照勤上人により、明治34年（1901）1月、時の文部大臣松田正八氏へ設置の届け出を済ませ「私立成田図書館」として設立、翌35年2月11日に開館された。

初代館長であった石川照勤上人は、設立開申書の中で「私儀コノ度公衆ノ閲覧ニ供センガ為メ内外ノ図書ヲ蒐集シ私立成田図書館ヲ設置仕候条此段及開申候也」と記し、この設立の精神は、「成田山の宗教的使命達成と、地方文化向上のため」「我が国の精神文化の向上のため」である、としている。



① 旧成田図書館

右の建物が本館、左が書庫（大正7年頃）

時代と共に老朽化・狭隘化した本館は、昭和59年10月に「市立成田図書館」が開館されたことにより、その任を譲り、昭和63年の全面改築を機に「成田山仏教図書館」と館名を変更し、蔵書の特殊性に鑑み専門図書館として運営されることとなり、今日に至っている。



② 成田山仏教図書館

蔵書の公開

図書館のホームページより、全蔵書（雑誌・研究紀要論文・雑誌論文を含む）を検索可能とし、タイトル数にして約80万件のデータベースとなっている。

ホームページURL <http://naritasanlib.jp/>

令和7年度事業報告

- 職員
兼任2名（館長、総務課長）
常駐2名（司書1名、事務職員1名）
- 利用状況
来館総数 2,343人
（一般／1,518人・学生／825人）
開館日数 297日
蔵書利用冊数 10,790冊

ホームページ利用者数 271,159人
蔵書検索アクセス総数 4,783,328件
- 資料購入
図書 44種
新聞・雑誌（年間購読） 54誌
- 現在蔵書数
3月末現在 338,861冊（除雑誌）
前年度比 262冊増

主な事業

- ウェブ公開データ随時修正更新作業
- 図書購入
仏教書を中心とする書籍、全集などの継続図書、既に所蔵する雑誌の欠本補充分を主に購入。
- 資料保存
破損本の再製本、雑誌の合本製本、和装本、巻物類等の帙及び桐箱作製など。
- 蔵書配架整備
配架スペースに入りきれなくなった図書の配架移動調整。

令和8年度事業予定

1. 職員
兼任2名(館長, 総務課長)
常駐2名(司書1名, 事務職員1名)
2. 開館日
火・土の2日間を通常開館、水・木・金・日
を予約閲覧日とする。自習等の閲覧室利用
は、予約閲覧日も利用可。
3. ウェブ公開データ随時修正更新作業
4. 図書購入
仏教書を中心とする書籍、全集などの継続
図書、既に所蔵する雑誌の欠本補充分を主に
購入。
5. 資料保存
破損本の修復、再製本、雑誌の合本製本、
和装本、巻物類等の帙及び桐箱作製など。

寄贈図書・資料

次の方々より、貴重な図書・資料をご寄贈頂
きました。ここに厚くお礼申し上げます。

令和7年4月～令和8年3月
(団体機関・個人 順不動)

図書、資料名・巻号	寄贈者
脱炭素は伝え方が97% デカボの方程式「欲望× ストーリー+貢献実感」朝日学研シンクエスト 大原幽学記念館報告 11	旭市教育委員会
誇れる国、日本-謀略に! 翻弄された近現代- 18	アパグループ
池上 61-5 ~62-4	池上本門寺
吹いてみたい筆築	石黒賢氏
市立市川歴史博物館館報 令和5年度	市川歴史博物館
更級日記千年紀文学賞受賞作品集 5	市原市教育委員会
うまれかわりの旅-いちはらと出羽三山信仰- 令和7年度特別展	市原歴史博物館
伊能忠敬記念館年報 27	伊能忠敬記念館
伊能忠敬研究(「伊能図探求」継承 季刊「史 料と伊能図」) 106~108	伊能忠敬研究会

参考資料「伊能忠誨日記」便覧(仮)	同上
「常陸名所図屏風」研究	猪岡萌菜氏
仏心奉造 大仏師今村九十九作品集	今村九十九氏
図書 916~927	岩波書店
印西の歴史 15	印西市
印度学宗教学会 論集 51	印度学宗教学会
稲 6-5 [通31], 7-1 [通32]	檜田良枝氏
傘松 979~990	永平寺
円覚 350~353	円覚寺派宗務本所
円覚寺派宗務録事	同上
大倉山論集 71	大倉精神文化研究所
大谷大学研究年報 77	大谷学会
大谷学報 104-1,104-2	同上
善財童子の旅 現代語訳 華嚴経「入法界品」	小幡哲生氏
グライ・ラマ 智慧と慈悲	同上
グライ・ラマ 慈悲の力	同上
グライ・ラマ 宗教を語る	同上
グライ・ラマ 死をみつめる心	同上
グライ・ラマ 幸福と平和への助言	同上
グライ・ラマ 般若心経入門	同上
グライ・ラマ こころの自伝	同上
グライ・ラマの般若心経	同上
グライ・ラマの仏教入門	同上
思いやりのある生活	同上
空の智慧、科学のこころ	同上
グライ・ラマ 未来への希望	同上
三井寺 210~213	園城寺
小学生のぼくが見た太平洋戦争	笠原健治
春日部市郷土資料館 第72回企画展示「麦わらの かすかべ~帽子都いま・むかし~」展示解説書	春日部市郷土資料館
構築された仏教思想 明恵	粕谷隆宣氏
マヨネーズのひみつ(学研まんがでよくわかる シリーズ215)	株式会社Gakken
マヨネーズのひみつ(学研まんがでよくわかる シリーズ217)	同上
きみが社会のまんなか! こどもまんなかのひ みつ(学研まんがでよくわかるシリーズ特別編)	同上
会社がわかる仕事ができる 6 馬のトレーナー という仕事	同上
豆乳のひみつ(学研まんがでよくわかるシリー ズ216)	同上

造船のひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ221) 同上
 建築と土木のひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ220) 同上
 アミノ酸のひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ222) 同上
 マネジメントシステムのひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ224) 同上
 未来をつくるひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ225) 同上
 耐火物のひみつ-1000℃以上の熱に耐える物-(学研まんがでよくわかるシリーズ223) 同上
 はごろもフーズってどんな会社? (会社がわかる仕事わかる7) 同上
 でんぶん・水あめのひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ 226) 同上
 橋のひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ227) 同上
 ウレタンのひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ228) 同上
 イメージセンサーのひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ229) 同上
 公認会計士のひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ 仕事のひみつ編8) 同上
 小麦粉のひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ232) 同上
 地質調査のひみつ (学研まんがでよくわかるシリーズ231) 同上
 柏市のひみつ (まんがでよくわかるシリーズ地域のひみつ編) 同上
 金沢文庫研究 通354 神奈川県立金沢文庫 運慶作 大威徳明王像 同上
 民具マンスリー 58-1~58-12
 神奈川大学日本常民文化研究所
 神奈川近代文学館 168,169
 神奈川文学振興会
 神奈川近代文学館年報・紀要 R6年度 同上
 神奈川近代文学館 170,171 同上
 神の光 1169~1178 神の光社
 昭和二十年一月~十二月 高等女学校生徒の絵日記を読む-木更津高等女学校生徒絵日記- 神山知徳氏
 川崎大師教学研究 紀要 10
 川崎大師教学研究

川崎大師だより 769~780
 川崎大師平間寺
 汲古 88 汲古書院
 九州龍谷短期大学紀要 72
 九州龍谷短期大学
 京都女子大学宗教・文化研究所 研究紀要38,39
 京都女子大学宗教文化研究所
 清水 234~236 清水寺
 生命之光 865~876 キリスト聖書塾
 金峯山時報 701~711 金峯山時報社
 修験道 114~116 金峯山修験本宗宗務庁
 浅草寺日記 45 補遺編 5 金龍山浅草寺
 拔萃のつづり 84 熊平製作所
 くらま 98-5~99-3 鞍馬寺
 京成電鉄115年の歩み 京成電鉄株式会社
 もっと知りたい!千葉のおもしろ博物館 3~14
 千葉銀行
 伝統と革新の街 世界を夢中にさせるT O K Y O大冒険 講談社B E C K
 興福寺仏教文化講座要旨 492~503
 興福寺教学部
 高野山 61~72 高野山真言宗
 高野山大学密教文化研究所紀要 39
 高野山大学密教文化研究所
 十卷章の英訳研究 1 同上
 JICA MAGAZINE 24~28 国際協力機構
 いとくら 13 国際仏教学大学院大学
 仙石山仏教学論集 15 同上
 国際仏教学大学院大学研究紀要 29 同上
 日本古写経善本叢刊 12 金剛寺蔵 念仏要文抄 同上
 仙石山仏教学論集 16 同上
 日本古写経研究所研究紀要 10
 国際仏教学大学院大学附属日本古写経研究所
 国立国会図書館月報 768~779
 国立国会図書館
 かたちの仕事 小田中耕一作品集 株式会社 御座候
 国家学会雑誌 138-3・4~139-1・2
 国家学会
 日本文化研究 16
 駒沢女子大学日本文化研究所
 駒沢大学禅研究所年報 特別号 石井修道先生傘寿記念文集 駒沢大学禅研究所
 駒沢大学禅研究所年報 37 同上

有形文化財（建造物）登録記念企画展 大正モダン 復興の図書館
 駒沢大学禅文化歴史博物館
 駒澤大学禅文化歴史博物館紀要 8 同上
 駒沢大学仏教学部研究紀要 83,84
 駒沢大学仏教学部
 駒沢大学仏教学部論集 56
 同上
 虚空 69,70 小宮一雄氏
 わかば 924～935
 金光教少年少女会連合本部
 月刊 嵯峨 1121～1133
 嵯峨御所大覚寺嵯峨御流華道総司所
 佐倉城跡（三ノ丸第1次・2次）発掘調査報告書 佐倉市
 風媒花 38 佐倉市教育委員会
 正伝 野口雨情 佐々木靖章氏
 里見氏研究 4 里見氏研究会
 近世在方町佐原本宿組の記録－享和二年（1802）諸用控帳－ 佐原古文書学習会
 三康文化研究所年報 56 三康文化研究所
 三康文化研究所所報 60 同上
 書道文化 21 四国大学書道文化学会
 遊行 233～235 時宗総本山宗務所
 四天王寺 826,831 四天王寺
 斯道文庫論集 60 斯道文庫
 メッセージの歴史－広報誌に見る学園・大学の歴史－ 淑徳大学アーカイブズ特別展 展示図録
 淑徳大学
 福祉人類学試論－文化からみた社会福祉－
 淑徳大学長谷川仏教文化研究所
 本山修験 230,231・232 聖護院門跡
 高森碎巖－長南に生まれた最後の南画家－
 城西国際大学水田美術館
 浄土宗新聞 698～710 浄土宗
 カラフルな共生社会を目指して LGBTQ+についてみんなで考える 同上
 昭和学院短期大学紀要 62
 昭和学院短期大学
 小金牧と白井 令和6年度白井市郷土資料館開館30周年記念企画展図録
 白井市郷土資料館
 御室派宗報 263～265 真言宗御室派宗務所
 真言宗善通寺派 宗報 147～149
 真言宗善通寺派宗務庁
 真言宗智山派 宗報 895～906
 真言宗智山派宗務庁
 生きる力 SINGON 121～126 同上
 同朋新聞 810～821 真宗大谷派宗務所
 真宗 1454～1465 同上
 真宗大谷派名古屋教区教化センター研究報告14 真宗大谷派名古屋教区教化センター
 新宗教新聞 1152～1154 新宗教新聞社
 真宗文化－真宗文化研究所年報－ 34
 真宗文化研究所
 神道宗教 279, 280・281
 神道宗教学会
 月刊 ひかり 782～794 西山浄土宗
 西山禅林学報 34 西山禅林学会
 深草教学 36 西山深草派宗務所
 WCRP [WORLD CONFERENCE ON RELIGION AND PEACE] 545～549
 世界宗教者平和会議日本委員会
 平和のための宗教－対話と協力－ 18
 同上
 全国珠算新聞 671～674 全国珠算教育連盟
 第110回 全国図書館大会 長崎大会記録
 全国図書館大会長崎大会実行委員会
 浅草寺仏教文化講座 69 浅草寺
 浅草寺 729～738 浅草寺教化部
 るりの光 254 総本山一畑寺
 真言宗善通寺派檀信徒必携（増補改訂版）
 総本山善通寺
 仁和 109～111 総本山仁和寺
 袖ヶ浦市史研究 22 袖ヶ浦市教育委員会
 村のくらしと一大事－江戸時代の事件記録を読む－ 令和7年度企画展 I
 袖ヶ浦市郷土博物館
 袖ヶ浦古墳大辞典－袖ヶ浦の古墳時代－
 同上
 コミュニティ 173,175 第一生命財団
 ポスチャー [POSTURE] 52 同上
 かがみ 55 大東急記念文庫
 跳龍 77-4～78-3 大本山総持寺出版部
 宗報大覚寺々報 大覚寺 816～827
 大本山大覚寺
 はなびら 127～130 同上
 大雄 178～181 大雄山最乗寺
 高尾山報 735～746 高尾山薬王院

没後100年記念企画展 資生堂創業者 福原有
信と館山 館山市立博物館
館山市立博物館報 ミュージアム発見伝 80
同上
戦後80年 令和7年度企画展 東京湾要塞と館山
同上
玉藻 1129～1141 玉藻社
智山学報 通巻88 智山勸学会
智青 245～247 智山青年連合会
現代密教 33,34 智山伝法院
ひまわり倶楽部 62 ちばぎん総合研究所
千葉県誕生150周年 記念誌 千葉県
第2次 千葉県文化芸術推進基本計画－誰もが
文化芸術に親しめる千葉－
千葉県環境生活部スポーツ・文化局文化振興課
千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告 59～61
千葉県教育委員会
ちばの古墳まる分かり
千葉県教育庁教育振興部文化財課
らいぶらりあん－千葉県公共図書館協会誌－
66 千葉県公共図書館協会
千葉県詩集 58 千葉県詩人クラブ
指標で知る千葉県－千葉県統計指標－ 2025
千葉県総合企画部統計課
千葉県統計年鑑 令和6年 同上
千葉県勢要覧 令和6年度
千葉県総務部統計課
広報 ねこな 45 千葉県根本名川土地改良区
関宿城に舞う鷹の羽－下総久世家－ 令和7年
度開館30周年記念企画展
千葉県立関宿城博物館
千葉県の図書館 2025 千葉県立中央図書館
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財
「房総のお浜降り習俗」記録映像解説書
千葉県立中央博物館
[千葉県立]中央博物館だより 76 同上
令和7年度企画展 房総の海辺のムラ－漁撈か
ら見た人々の暮らし－ 千葉県立房総のむら
しあわせ 540～542 千葉県労働者福祉協議会
千葉氏史料集 千葉市
千葉いまむかし 38 千葉市教育委員会
千葉県荒久遺跡(第5次)－新千葉県立図書館
等複合施設建設に伴う埋蔵文化財調査報告書－
(公財)千葉市教育振興財団

千葉美術散歩 開館30周年・開府900年記念展
千葉市美術館
ふみくら 213～215 千葉市文庫連絡協議会
千葉職業能力開発短期大学校紀要 26
千葉職業能力開発短期大学校
千葉市立郷土博物館 研究紀要 31
千葉県立郷土博物館
千葉氏と城館－住まう・治める・戦う－
同上
チベット文化研究会報 185～187
チベット文化研究所
茶屋四郎次郎記念学術学会誌 15
茶屋四郎次郎記念学術学会
中央学術研究所紀要 54 中央学術研究所
中尊寺九百年記念 国宝 金銅迦陵頻伽文華鬘
－論集 5－ 中尊寺
生きがい研究 HEALTHY & ACTIVE AGING
31 長寿社会開発センター
哲学・思想論集 50
筑波大学人文社会科学研究科哲学・思想専攻
教会建築家・鉄川与助の生涯 鉄川ひろ子氏
天台学報 67 天台学会
山の寺念仏寺所蔵史料調査報告書 東京大学史
料編纂所研究成果報告書2022-2
東京大学史料編纂所
東京大学史料編纂所研究紀要 35 同上
仏教文化 64 東京大学仏教青年会
仏教文化研究論集 26 同上
国際哲学研究 13
東洋大学国際哲学研究センター
東大寺続要録 4 東大寺
東北大学文学研究科研究年報 74
東北大学大学院文学研究科
東北宗教学 19,20
東北大学大学院文学研究科宗教学研究室
円了 東洋大学井上円了哲学センター
国際哲学研究 12
東洋大学重点研究推進プログラム
東洋学研究 63 東洋大学東洋学研究所
岩崎文庫貴重書書誌解題 11 東洋文庫
東洋文庫書報 56 同上
東洋文庫百年史 同上
読書推進運動 689～700 読書推進運動協議会
図書館車の窓 131～133
「図書館車の窓」編集室

わかりやすい土地読本 R7.10
 土地情報センター
 成田市史研究 49 外山信司氏
 めぐみ 161～164 中山身語正宗伝道出版部
 名古屋成田山 850～861 成田山大聖寺
 深川不動尊だより 慈眼 125～128
 成田山東京別院深川不動堂
 成田市史研究 49 成田市教育委員会
 成田市内遺跡発掘調査報告書 R5年度 同上
 成田市の文化財 56 同上
 資料館だより 17 成田市下総歴史民俗資料館
 南都仏教 104 南都仏教研究会
 西尾市岩瀬文庫企画展100回記念特別展（前期）
 江戸の出版文化と葛屋重三郎－日本出版物語－
 西尾市岩瀬文庫
 江戸の出版文化と葛屋重三郎－西尾市岩瀬文庫
 企画展100回記念特別展（後期） 同上
 国重要無形民俗文化財指定30周年記念 言祝－
 西尾の三河漫才師－ 同上
 石づくし－古書が語る石の世界－ 同上
 日本漢文学研究 20
 二松学舎大学東アジア学術総合研究所
 日本漢学研究センター
 日展ニュース 190～192 日展
 日本学士院紀要 79-3～80-2 日本学士院
 日本貨幣カタログ 2025 日本貨幣商協同組合
 弘道 1155～1160 日本弘道会
 生活世界の史料学（歴史と民俗 42）
 日本常民文化研究所
 この1冊ですべてがわかる！インスタントラー
 メン図鑑 第6版 日本即席食品工業協会
 PATIPADA（パティパダー） 31-12～32-12
 日本テーラワーダ仏教協会
 お経はブッダの白熱教室 同上
 「小空性経」を読む－ブッダが直接語った「空」
 の世 同上
 季刊 iichiko QUARTERLY INTERCULTURAL 166～169
 日本ベリエールアートセンター
 密教学研究 57 日本密教学会
 月刊 人間 633～643 人間社
 あのころの空へ 天知る 地知る 吾知る
 同上
 念法時報 2122～2163 念法時報社
 鶯乃声 100-5～101-4 念法真教
 野田市郷土博物館・市民会館 年報・紀要 17

野田市郷土博物館・市民会館
 野田の浅間様－石に刻まれた富士山への祈り－
 野田市郷土博物館
 野田市史研究 35 野田市史編さん委員会
 淑徳大学 長谷川仏教文化研究所研究年報 49
 長谷川仏教文化研究所
 比叡山時報 842～853 比叡山時報社
 白光 72-5～73-2 白光真宏会
 豊山教学大会紀要 53 豊山教学振興会
 法然マニアな人々－仏教大学法然仏教学研究セ
 ンターの10年－
 仏教大学宗教文化ミュージアム
 常照 [仏教大学図書館報] 72 仏教大学図書館
 仏教大学法然仏教学研究センター紀要 11
 仏教大学法然仏教学研究センター
 道 みち 14 仏教伝道協会
 仏教文化学会紀要 33,34 仏教文化学会
 宗教年鑑 令和7年版 文化庁
 宗務時報 128 文化庁宗務課
 法学協会雑誌 142-3・4～143-2 法学協会
 法談 71 法談会
 浄土 91-3～92-2 法然上人鑽仰会
 法然上人鑽仰会ブックレット 1 同上
 聖徳 254,255 法隆寺教学部
 無上道 916～927 法華宗宗務院
 第91回 全国盲学校弁論大会 弁論集（2024
 年度） 毎日新聞社点字毎日
 文学同人誌 楨 48 楨の会
 連携特別展 まつど×とくがわ
 松戸市立博物館
 松戸市立博物館年報 32 同上
 ものみの塔－エホバの王国を告げ知らせる－
 146-9 松本阿佐子氏
 高野山大学密教文化研究所紀要 38
 密教文化研究所
 妙音 807～817 妙音新聞社
 正法輪 75-4～76-2・3 妙心寺派宗務本所
 花園 75-4～76-3 同上
 ミルククラブ 145～148 ミルククラブ
 MEIKAI UNIVERSITY JOURNAL OF
 HOSPITALITY AND TOURISM 通20
 明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部
 ASIAN ICONOGRAPHIC RESOURCES
 MONOGRAPH SERIES 24 森雅秀氏
 薬師寺 223～227 薬師寺

薬師寺聖教調査報告書 第2輯 聖教I 資料
 編1,2,論考・図版篇 同上
 お寺のある暮らし 八事山興正寺
 華嚴仏教思想の形成(八事山仏教シリーズ6)
 同上
 The Structure of Hindu Temples in Bali(八
 事山仏教シリーズ8) 同上
 真言を歌う 詩のつばさ(八事山仏教シリーズ
 9) 同上
 安元コレクション図録 滑溪清韻録-東西の美
 しきものたち 安元剛氏
 宇宙 193~196 山岡記念文化財団
 無盡燈 490~502 大和山出版社
 認知症と仏教 吉水秀樹氏
 立正大学 仏教学論集 41・42合併号
 立正大学大学院仏教学研究會
 立正大学博物館 館報 万吉だより 36
 立正大学博物館
 大崎学報 181 立正大学仏教学會
 月刊 リベラル・タイム(LIBERAL TIME)
 25-5~26-4 リベラルタイム出版社
 龍谷史壇 160~161 龍谷大学史学会
 仏教史研究 63 龍谷大学仏教史研究会
 和光 240 臨濟宗建長寺派宗務本院
 あした21 913~924 靈友會
 明法 852~863 同上

調査報告

石川照勤上人著作目録

当館の創立者にして初代館長の石川照勤上人は、哲学館(現東洋大学)修学時代から宗教誌へ寄稿している。この目録は、照勤上人が寄稿した著作目録である。

執筆の殆どはペンネームで行われていたため、現在まで著作物を目録化することは困難であったが、照勤上人の修学時代のノートから寄稿名に使用していた「仮号表」が発見されたことにより、再調査が可能となった。嘗て照勤上人に近侍していた東京大森円能寺の高橋照空僧正が記した「石川大僧正公開論文目録」(「新更6-4(S10.4.10)」)を基に、筆名、出版年月日を追加、その後の資料調査で発見された著作を追加し、改めて目録化した(掲載は出版年月日順)。

飛田 敏秀

○ 宗 教 関 係

	題 名	誌 名	筆 名	出版年月日
1	仏教者今日の急務	日本之教学 16号	望洋子	M21.12.10
2	所感を記して日本の教学記者に望む	日本之教学 18号	望洋子	M22.2.10
3	理論攻究の時代は去れり	廻瀾滴珠 2号	望洋学人	M22.5.25
4	吾人宗教家の職務を論ず	法の雨 18号	石川兵藏	M22.6.15
5	僧侶諸君の覚悟は如何	廻瀾滴珠 3号	望洋学人	M22.6.25
6	密厳教報の発行を祝し吾人宗教家の職に及ぶ	密厳教報 1号	望洋学人	M22.7.12
7	明治二二年は果して仏教再興の時期なる乎	廻瀾滴珠 4号	望洋学人	M22.7.25
8	吾人の境遇	廻瀾滴珠 6,9号	龍丘道人痴堂	M22.9.25, M22.12.25
9	僧侶とは如何なる者ぞ	密厳教報 4,6~8号	望洋居士	M22.10.12~M23.1.25
10	時	法の雨 24号	石川望洋	M22.12.15
11	布教略論	密厳教報 9,11,12号	望洋隠士	M23.2.12~M23.3.25
12	自由的宗教と壓制的宗教	伝灯 3号	石川望洋	M23.3.21
13	僧侶今日の地位を論ず	法の雨 28号	石川望洋	M23.4.20
14	望洋漫筆	伝灯 5号	石川望洋	M23.5.21
15	僧侶は社会有用の元素なり	伝灯 6号	石川望洋	M23.6.21
16	還俗とは何ぞや	密厳教報 22号	望洋隠士	M23.8.25
17	漫筆	密厳教報 23号	直得子	M23.9.12
18	仏教家合同策	伝灯 9,10号	直得子	M23.9.21, M23.10.21
19	学問と宗教とに関する余の意見	密厳教報 24号	直得子	M23.9.25

	題名	誌名	筆名	出版年月日
20	漫筆	密巖教報 24号	直得子	M23.9.25
21	秋夜窃かに僧侶の前途を想う	密巖教報 25号	寸台処士	M23.10.12
22	貧天地	密巖教報 25号	直得子	M23.10.12
23	自然教と天啓教との前途を 卜す	法の雨 34号	石川望洋	M23.10.25
24	仏教倶楽部に就て	密巖教報 26号	直得子	M23.10.25
25	れふオーめーしょん	仏教新運動 14号	直得子	M23.11.15
26	将来の僧侶を論ず	密巖教報 29,33,43号	直得子	M23.12.12~M24.7.12
27	巨口を開いて我れ仏教を呑 まんとなす	伝灯 12号	直得子	M23.12.21
28	明治二十四年の仏教を論ず	仏教新運動 16号	直得子	M24.1.10
29	佛教 その他(漫筆)	伝灯 14号	直得子	M24.2.21
30	宗教家の本分を論ず	密巖教報 35号	天空海濶楼主人	M24.3.12
31	名目初心抄(顕密分別、 十億)	密巖教報 35~39号	浜の舎主人	M24.3.12~M24.5.12
32	春色 その他(漫筆)	伝灯 15号	直得子	M24.3.21
33	還俗新論	仏教新運動 19号	直得子	M24.3.25
34	狂する勿れ、浮かるゝ勿れ	密巖教報 36号	天空海濶楼主人	M24.3.25
35	僧侶善後策	密巖教報 38,40号	直得子	M24.4.25, M24.5.25
36	新運動論	仏教新運動 23号	直得子	M24.5.25
37	僧侶の礼帽 その他(漫筆)	密巖教報 40号	直得子	M24.5.25
38	法門の大賊、国家の罪人	密巖教報 43号	直得子	M24.7.12
39	垂細垂 その他(漫言)	伝灯 19号	直得子	M24.7.21
40	大英傑	仏教新運動 33号	直得子	M24.10.25
41	仏教家の足と羽	同学 16号	直得子	M24.11.16
42	偉人 その他(漫言)	伝灯 23号	直得子	M24.11.21
43	偽道德家 その他(漫言)	伝灯 24号	直得子	M24.12.21
44	学仏の法案に就て	仏教新運動 37号	直得子	M24.12.25
45	古の仏教者と今の仏教者	密巖教報 54号	直得子	M24.12.25
46	明治二十五年の新仏教界	仏教新運動 38号	直得子	M25.1.2
47	仏意遵奉論	密巖教報 58号	直得子	M25.2.25
48	仏教改革者	仏教新運動 40,41号	直得子	M25.2.5, M25.2.25
49	仏教改革者	仏教公論 2,5号	直得子	M25.4.10, M25.5.25
50	活機 その他(漫言)	仏教公論 6号	直得子	M25.6.10
51	懐徳 その他(漫言)	仏教公論 9号	直得子	M25.7.25

	題名	誌名	筆名	出版年月日
52	乍延引飯泉啓運様に	明教新誌 3116号	—	M25.8
53	情と愛 その他(漫言)	仏教公論 10号	直得子	M25.8.10
54	僧侶新論	仏教公論 11,14,17,19号	直得子	M25.8.25~M25.12.25
55	再び飯泉啓運様に	明教新誌 3122号	—	M25.9
56	望洋閣漫言	明教新誌 3128号	—	M25.10
57	秋風感多し(漫言)	仏教公論 15号	直得子	M25.10.25
58	秋夜感多し	明教新誌 3139号	—	M25.11
59	文明の大勢と宗教社会(時事漫言)	仏教公論 18号	直得子	M25.12.10
60	筑波峰の唾雪と云う人に	明教新誌 3166号	—	M26.1
61	仏教目的佛教任務	佛教公論 21号	直得子	M26.1.25
62	社会の形勢と時文の傾向	仏教公論 22号	直得子	M26.2.10
63	僧侶問題 その他(漫言)	仏教公論 23号	直得子	M26.2.25
64	新義派学林論	密巖教報 82~84号	直得子	M26.2.25~M26.3.25
65	宗教としての仏教 その他(望洋漫言)	仏教公論 30号	直得子	M26.6.10
66	教育と宗教の衝突に就て	密巖教報 90号	直得子	M26.6.25
67	興教大師	明教新誌 3260号	—	M26.7.2
68	興教大師	密巖教報 91, 93号	直得子	M26.7.12, M26.8.12
69	教学先後論	佛教公論 34号	直得子	M26.8.10
70	渡来の仏教諸氏	仏教公論 35号	直得子	M26.8.25
71	渡来の仏教諸氏	密巖教報 93号	勤山人	M26.8.12
72	仏教文明論	明教新誌 3293号	—	M26.9
73	仏教戒律論	明教新誌 3309号	—	M26.10
74	海外布教論	明教新誌 3317号	—	M26.10
75	近時の佛界を懐ふ	成田志林 2号	無署名	M27.12.3
76	新年に際して仏界革新家諸氏に告ぐ	成田志林 3号	無署名	M28.1.10
77	十万の僧侶に激す	成田志林 9号	無署名	M28.7.10

○ 倫理、教育、社会、心理関係

	題名	誌名	筆名	出版年月日
78	未来の政治家たらんとする人に告ぐ	思想海 1号	望洋学人	M22.5.14
79	通俗心理談(応用心理学一斑)	廻瀾滴珠 4~8,11号	望洋閣主人	M22.7.25~M23.2.25
80	叨りに地方の僧侶のみを責むる勿れ	廻瀾滴珠 5号	望洋漁夫	M22.8.25

	題名	誌名	筆名	出版年月日
81	希臘倫理説の一斑を論ず	密巖教報 16,17,19号	望洋隠士	M23.5.25～M23.7.12
82	応用心理学一斑	佛教新運動 13～17,19,21,22,27,33号	浜の舎主人	M23.10.15～M24.10.25
83	近世倫理学発達の原因を論ず	密巖教報 27号	寸台C.T生	M23.12.12
84	学仏子弟教育の法案	同学 6号	石川望洋	M24.1.16
85	師弟論の末に加ふ	同学 8号	直得子	M24.3.16
86	眼を社会の下層に着けよ	密巖教報 37号	天空海濶楼主人	M24.4.12
87	社会的知識, 雅懐, 虚栄	成田志林 16号	無署名	M29.2.10

○ 文芸関係

	題名	誌名	筆名	出版年月日
88	観花、野遊	密巖教報 39号	直得子	M24.5.12
89	つれづれ	密巖教報 40号	浜の舎主人	M24.5.25
90	初夏感慨	同学 11号	直得子	M24.6.16
91	秋之夜	密巖教報 49,50号	浜の舎主人	M24.10.12, M24.10.25
92	冬之日	密巖教報 51,52号	浜の舎主人	M24.11.12, M24.11.25
93	文界の現状に就て	成田志林 5号	無署名	M28.3.10
94	如何に普通文を定むべきや	成田志林 6号	無署名	M28.4.10
95	戦後文学	成田志林 8号	無署名	M28.6.10
96	雑誌文壇田舎評	成田志林 11,12号	無署名	M28.9.10, M28.10.10

○ 雑

	題名	誌名	筆名	出版年月日
97	伝灯の発刊に逢ふて聊か懐ふ所を陳ぶ	伝灯 2号	石川望洋	M23.2.21
98	望洋漫筆	廻瀾滴珠 12号	望洋子	M23.3.25
99	與辰巳小二郎君書	密巖教報 15号	松筠子	M23.5.12
100	教報の一週年に際し聊か平素の感慨を述ぶ	密巖教報 19号	石川望洋	M23.7.12
101	秋夜の感	同学 3号	直得子	M23.10.16
102	齋籐隆現上人様	密巖教報 28号	寸台処士	M23.11.25
103	満足, 魔鬼, いろはに就て	密巖教報 29号	越川漁長	M23.12.12
104	再び隆現上人様	密巖教報 30号	寸台処士	M23.12.25

	題名	誌名	筆名	出版年月日
105	答高橋南橋君書	仏教新運動 18号	直得子	M24.3.10
106	與佐治某書	密巖教報 37号	天筆將軍	M24.4.12
107	實事問題	密巖教報 39号	天空海濶楼主人	M24.5.12
108	上海来信	密巖教報 42号	直得子	M24.6.25
109	心	密巖教報 42号	直得子	M24.6.25
110	密巖教報の満二週年	密巖教報 43号	直得子	M24.7.12
111	暑中休暇, 撃て出づる覚悟	密巖教報 44号	直得子	M24.7.25
112	興廢存亡の機	密巖教報 51号	直得子	M24.11.12
113	克己自制	密巖教報 51号	直得子	M24.11.12
114	時運, 大勢, 宗教家と世俗人	密巖教報 53号	直得子	M24.12.12
115	望洋閣漫言	明教新誌 3144号, 3154号	-	M25.10
116	加藤政信に答へん	明教新誌 3151号	-	M25.11
117	新年の佛教	仏教公論 20号	-	M26.1
118	時事偶評	明教新誌 3193号	-	M26.2
119	真言宗近時概評	明教新誌 3207号	-	M26.3
120	新井照恭君を弔ふ	密巖教報 90号	松筠子	M26.6.25
121	漫言	明教新誌 3272号	-	M26.7
122	激	密巖教報 91号	音羽能弁学 会発起者	M26.7.12
123	答田中禅峰山人	密巖教報 92号	漫言子	M26.7.25
124	浄土宗便覧を讀みて	密巖教報 92号	B.I生	M26.7.25
125	宗教家として相馬家事件を論ず	明教新誌 3287号	-	M26.8
126	明教記者足下	明教新誌 3290号	-	M26.8
127	石堂沙彌に與ふ	明教新誌 3291号	-	M26.8
128	愚物の解	明教新誌 3302号	-	M26.9
129	嗚呼本派学生諸氏	密巖教報 95号	天涯地角楼主人	M26.9.12
130	密巖記者に答ふ	明教新誌 3306号	-	M26.10
131	解惑	明教新誌 3306号	-	M26.10
132	再び密巖記者に答ふ	明教新誌 3315号	-	M26.10
133	時事偶評	明教新誌 3331号	-	M26.11
134	望洋漫言 1, 2	同学 40, 41号	無署名	M26.12.21, M27.1.21
135	成田志林発行の趣旨	成田志林 1号	無署名	M27.11.3
136	暗黒世界, 浮世概観	成田志林 4号	無署名	M28.2.3
137	雷同付和の弊	成田志林 6号	無忌憚庵主人	M28.4.10

	題名	誌名	筆名	出版年月日
138	噫	成田志林 7号	無署名	M28.5.28
139	西京雑感 その他	成田志林 8号	無署名	M28.6.10
140	合同 その他	成田志林 9号	無署名	M28.7.10
141	文学 その他	成田志林 10号	無署名	M28.8.10
142	加藤弘之氏 その他	成田志林 11号	無署名	M28.9.10
143	至誠 その他	成田志林 12号	無署名	M28.10.10
144	今後の志林に就て その他	成田志林 13号	無署名	M28.11.10
145	歳晩に莅みて その他	成田志林 14号	無署名	M28.12.10
146	片言隻語	成田志林 17号	無署名	M29.3.10
147	亜米利加だより	密厳教報 231号	望洋学人	M32.5.12
148	英国通信	伝灯 208号	石川望洋	M33.2.28
149	印度通信	伝灯 211号	石川望洋	M34.4.13
150	錫蘭通信	伝灯 212号	石川望洋	M33.4.28
151	望洋日記	智嶺新報 2, 3号	石川照勤	M34.4.21, M34.5.21
152	報告発刊に就て	私立成田図書館報告 1号	石川照勤	M35.6.11
153	本館事業の進歩	私立成田図書館報告 3号	石川照勤	M35.11.8
154	亜米利加人の人種併宗教	名家仏教講演集 2輯	石川照勤	M36.2.25
155	予の欧米観一斑	私立成田図書館報告 4号	石川照勤	M36.4.10
156	高城老師の遷化に就て	加持世界 11-6号	石川照勤	M44.6.1
157	生死無常一頼山陽の死一	法の灯 4-6号	石川照勤	T3.6.15
158	誰か死を免かれざらんや	法の灯 4-11号	石川照勤	T3.11.15
159	初めての病に驚くの記	智嶺新報 218号	石川照勤	T8.4.12

筆名の(-)は、本誌不所蔵のため、筆名不明

成田山靈光館



1. 概要

当館は、昭和22年（1947）5月3日に財団法人成田山文化財団の運営のもと成田山の宗教的使命達成と地方文化の向上を目的として創立された歴史博物館である。その前身は、昭和3年6月に社会教育機関として創設された成田山新更会で、戦後まもなく組織ならびに建物等を改組して設立された。昭和46年7月には県内5番目となる登録博物館の指定を受けた。

現在の建物は昭和58年7月に新築されたもので、その翌年建立された平和大塔1階の靈光殿も共通施設として使用されたが、平成16年（2004）3月には展示施設は本館だけとなった。そして同21年4月からは靈光殿で企画展を開催している。職員は下記の通りである。

館長 田中 照広（兼任）
総務課長 名取 照慎（兼任）
総務係長 矢嶋 毅之
学芸員 猪岡 萌菜（非常勤）

2. 令和7年度の活動

〔展示〕

靈光殿では常設展示「成田山の歴史」をおこなっている。展示は成田山の創建から、江戸時代までを対象に、成田山の創建・成田山の興隆・成田山の開帳・成田山と市川團十郎・成田詣とし、資料や写真パネルを通じて紹介している。以下、靈光殿で開催した企画展の概略を記す。

安政の本堂

3/8 - 6/29

安政の本堂として建立された釈迦堂が重要文化財に指定されて、本年は45年目となる。釈迦堂建立の背景や、尽力した人々をとおして成田山信仰の発展を考える。



千葉県の名所

7/5 - 9/7

当館の浮世絵コレクションの中から、千葉県の観光地や風景などを描いた名品17点を紹介。



成田山の講

9/13 - 12/7

成田山信仰が広まった要因のひとつが各地に設立された成田講。江戸時代の成田講の実態、その役割などを紹介。



成田山に初詣

1/1 - 3/1

初詣に節分、梅まつりと、1年を通じて成田山がひととき賑わいを見せる季節に、一体何が人々を成田山参詣にいざなったのかを紹介。



3. 収蔵資料

令和7年度において寄贈または購入により受け入れた資料は49点。主な資料は以下の通り。

- ・美術資料「関兵衛」(嘉永元年頃・広貞画)
- ・美術資料「成田山開帳富ケ岡花盛図」(安政3年・2代国貞画)
- ・美術資料「江戸名所百人美女 深川八幡」(安政4年・3代豊国画)
- ・美術資料「江戸名所百人美女 深川八幡」(安政4年・3代豊国画)
- ・美術資料「雅立功名鑑」(明治期・月岡芳年画)
- ・歴史資料「福岡成田山たより」(昭和期)
※岩手県二戸郡福岡町福安講社
- ・歴史資料「成田山代参連名簿記」(明治期)
- ・歴史資料「成田山前通」(絵葉書・明治期)



4. 利用状況

〔調査など〕

- ・千葉県立佐倉高校生徒ほか算額見学のため来館 (6/8)
- ・印西市立印旛歴史民俗資料館能勢幸枝氏ほか、考古資料調査のため来館 (7/15)
- ・千葉県立中央博物館須田華那氏、薬屋資料調査のため来館 (9/17)
- ・栄町史編さん荒井信司氏ほか、史料調査のため来館 (11/6・13)
- ・印西市歴史資料センター小池康久氏、史料調査のため来館 (11/6・13)

〔貸出・提供〕

- ・八千代市立郷土博物館の企画展「病をのりこえて」に浮世絵・絵馬(『好同行初春旅成田詣の図』・『源氏模様娘雛形の額』・『眼病平癒御礼の額』)のデータ使用を許可 (4/15)
- ・西三里塚区発行予定の『西三里塚HISTORY』に「成田鉄道沿線名所案内」の掲載を許可 (5/18)
- ・国立歴史民俗博物館の展示資料として「日清戦争身代り札霊験の額」の使用(パネル)を許可 (6/18)
- ・横芝光町立図書館の企画展「相撲今昔～横綱小錦八十吉の軌跡～」【11/1～12/21】に浮世絵・番付・成田山中興第14世三池鳳凰上人宛て小錦八十吉の手紙などを貸出
- ・比治山大学名誉教授石田信夫氏より、「酒醸一式の図」(豊原国周画)を著書『酒票の美 日本近代デザイン遺産(仮題)』(令和8年4月国書刊行会から発行予定)への掲載を許可 (12/4)
- ・東京美術『河鍋暁斎作品集』(令和8年3月刊行予定)に絵馬「大森彦七鬼女と争うの図」(河鍋暁斎画)の掲載を許可 (12/9)
- ・テレビ朝日「帰れマンデー見っけ隊!!」(1/19放送)に「初代市川團十郎」など4点の浮世絵の画像使用を許可
- ・千葉県立中央博物館須田華那氏ほか、企画展「生薬～自然からの恵み～」【3/14～6/15】に展示する薬看板・行商用薬箱借用のため来館 (2/26)

5. 博物館実習

9月5日から12日まで博物館実習を実施した。受け入れた学生の内訳は以下の通りである。

和洋女子大学 1名
 八州学園大学 1名
 東洋大学 1名
 筑波大学 1名
 日本大学 1名



6. 寄贈図書（令和7年4月～令和8年3月）

博物館だより 185～188	岩手県立博物館	箕輪遺跡	同上
年報 令和6年度	東北歴史博物館	資料館だより 56	君津市久留里城址資料館
年報 52	仙台市博物館	時代を映す錦絵 図録	国立歴史民俗博物館
館報 19号	稲敷市歴史民俗資料館	野村正治郎とジャポニズムの時代 図録	同上
中世リレー講演会講演録	同上	要覧 2025年度	同上
館報 13・14	大洗町幕末と明治の博物館	REKIHAKU 15	同上
麦わらのかすかべ 図録	春日部市郷土資料館	REKIHAKU 特集 海藻	同上
かわはく 81～83	埼玉県立川の博物館	REKIHAKU 特集 近代展示をひらく	同上
紀要 25	同上	令和5年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書	佐倉市教育委員会
館報 53	市川市川考古博物館	佐倉城跡(三ノ丸第1次・第2次)発掘調査報告書	同上
館報 令和6年度	市立市川歴史博物館	里見氏研究 4号	里見氏研究会
年報 27	伊能忠敬記念館	アーカイブズ・ニュース 29	同上
印西の歴史 15	印西市	淑徳大学アーカイブス	同上
令和5年度印西市内遺跡発掘調査報告書	印西市教育委員会	メッセージの歴史 図録	同上
研究紀要 7	印西市立印旛歴史民俗資料館	高森碎巖 図録	城西国際大学水田美術館
片山宮前遺跡(第2次)	柏市教育委員会	かおりだより 11	白井市郷土資料館
令和5年度柏市市内遺跡発掘調査報告書	同上	令和5・6年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書	袖ヶ浦市教育委員会
柏市飛行場調査報告書 I・II	同上	大曾根台遺跡(5)	同上
柏市湖南台特定土地区画整理事業埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	藤波砦跡(4)	同上
柏市柏インター西土地区画整理事業埋蔵文化財調査報告書 8・9・17	同上	寺野台遺跡(5)	同上
柏市柏インター西土地区画整理組合郷土資料館だより 71～74	鎌ヶ谷市郷土資料館	袖ヶ浦古墳大事典 図録	袖ヶ浦市郷土博物館
香取 127・128	香取神宮崇敬会	村のくらしと一大事 図録	同上
令和6年度君津市内遺跡発掘調査報告書	君津市教育委員会	袖ヶ浦市史研究 22号	同上
		館報 99	館山市立博物館
		福原有信と館山 図録	同上
		東京湾要塞と館山 図録	同上
		第2次千葉県文化芸術推進基本計画	千葉県
		房総の文化財 64・65	千葉県教育振興財団
		研究連絡誌 91・92	同上
		文化財センター年報 50	同上
		会報 122	千葉県文化財保護協会
		ちばの博物館 153	千葉県博物館協会
		千葉県の文書館 第31号	千葉県文書館
		千葉県の「昭和」 図録	同上
		諸家文書目録 13	同上
		関宿城に舞う鷹の羽 図録	千葉県立関宿城博物館
		房総の海辺のムラ 図録	千葉県立房総のむら
		千葉氏史料集	千葉市
		千葉氏以前の「ちば」/千葉氏以後の「ちば」講演録	千葉市・千葉大学
		千葉いまむかし 38	千葉市教育委員会

鉄絵銅彩 神谷紀雄展 図録 千葉市美術館
研究紀要 31 千葉市立郷土博物館
ちば市史編さん便り 34・35 同上
千葉大学ユーラシア言語文化論集 27
千葉大学ユーラシア言語文化論講座
令和6年度富里市内遺跡発掘調査報告書
富里市教育委員会
旧鈴木やゑ家発見の護符 同上
恩田家文書目録(3・完) 流山市教育委員会
向原南遺跡第1地点埋蔵文化財調査報告書
習志野市鷺沼土地区画整理組合
紀要 47・48・49 成田山仏教研究所
成田山仏教研究所所蔵洋書分類目録 第4巻
同上
法談 71号 成田山法談会
令和5年度成田市内遺跡発掘調査報告書
成田市教育委員会
成田市史研究 49 同上
成田市の文化財 第56集 同上
資料館だより 17
成田市下総歴史民俗資料館
西三里塚HISTORY 西三里塚区
鋸山石切場遺構調査事業報告書
鋸山日本遺産「候補地域」活用推進協議会
日本寺千五百羅漢調査報告書 同上
野田の浅間様 図録 野田市郷土博物館
令和6年度船橋市内遺跡発掘調査報告書
船橋市教育委員会
平成27・28年度船橋市市費単独事業遺跡発掘調
査報告書 同上
東中山台遺跡群(85) 同上
佐倉道南遺跡(9) 同上
夏見台遺跡(79) 同上
印南台遺跡(6) 同上
年報 令和6年度 船橋市郷土資料館
みゅーじあむ・船橋 24・25 同上
紀要 21・22 船橋市立飛ノ台史跡公園博物館
縄文と弥生 図録 同上
風土 ～縄文の造形と世界～ 図録 同上
打越遺跡 富津市
飛付遺跡・下谷遺跡 同上
令和4年度富津市内遺跡発掘調査報告書
富津市教育委員会
令和5年度富津市内遺跡発掘調査報告書 同上
令和6年度富津市内遺跡発掘調査報告書 同上

打越遺跡2確認調査報告書 同上
八反台遺跡(第19次)
株式会社地域文化財研究所
茂原市史資料編1(原子・古代、中世考古)補
足資料2 茂原市
茂原市古文書目録集(その十二)と代表的史料
茂原市教育委員会
財やちよ 10 八千代市教育委員会
埋やちよ 48・49 同上
白幡前遺跡n地点 同上
四街道市の歴史 資料編近現代1 四街道市
令和5年度四街道市内遺跡発掘調査報告書
四街道市教育委員会
木戸陣屋跡 図録
横芝光町教育委員会社会文化課
宝米明光院の阿弥陀三尊像 図録 同上
国府台 28・29
和洋女子大学文化資料館・博物館学課程
明治期の大蔵省管轄における中堅技術者に関す
る研究 天野あゆみ
高島秋帆 図録 板橋区立郷土資料館
紀要 25 同上
第23回 歴史民俗研究 板橋区教育委員会
博物館学芸員課程年報 26号 桜美林大学
かつしかとスポーツ 図録
葛飾区郷土と天文の博物館
博物館だより 88・89 家具の博物館
研究報告 第42輯 国学院大学博物館
博物館学紀要 49 国学院大学博物館学研究室
国学院大学博物館学研究 第4号 同上
百万塔 181～183 紙の博物館
大正モダン 復興の図書館 図録
駒沢大学禅文化歴史博物館
京成らいん 761～768 京成電鉄
美術館ニュース 301～305 サントリー美術館
紀要 23号 日本相撲協会 相撲博物館
大東文化大学博物館学講座だより 19
大東文化大学博物館学講座運営委員会
年報 40 たばこと塩の博物館
研究紀要 35 東京大学史料編纂所
紀要 第16号 江戸東京博物館
金鯪叢書 52 徳川黎明会
日展ニュース 190～192 日展
あるむぜお 152～155 府中市郷土の森博物館
美術文化史論集 18 三井記念美術館

熊野御幸記と藤原定家の書図録 同上
 館報 4・5 港区立郷土歴史館
 研究紀要 3 同上
 筑前秋月藩黒田家屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅲ
 旭化成不動産レジデンス株式会社
 品川台場（第五）遺跡発掘調査報告書
 株式会社四門文化財
 MOUSEION 69 立教大学 学校・社会教育講座
 史観 193・194 早稲田大学史学会
 伝統と文化 49 ポーラ伝統部下振興財団
 慈眼 125～129 深川不動堂
 対話による創作と継承 芸術学舎
 日・英くらべて読める山川日本史3近世
 山川出版社
 友の会会報 205～211 熱川バナナワニ園研究室
 民具マンスリー 685～696
 神奈川県日本常民文化研究所
 歴史と民俗 42 同上
 報徳学 19 国際二宮尊徳思想学会
 自然と文化 48 平塚市博物館
 年報 48・49 同上
 開港のひろば 159・160 横浜開港資料館
 館報 28号 久能山東照宮博物館
 資料館だより 244～248 沼津市歴史民俗資料館
 あなたと博物館 252～255 松本市立博物館
 美術館だより 499～510 石川県立美術館
 名古屋成田山 851～862 成田山大聖寺
 研究紀要 42 滋賀県立琵琶湖文化館
 博物館学年報 56
 同志社大学博物館学芸員課程
 京都府埋蔵文化財情報 149
 京都府埋蔵文化財調査研究センター
 京都の遺跡 17・18 同上
 館報 56 住友史料館
 年報 令和6年度 大阪歴史博物館
 館報 38 天理参考館
 博物館だより 29 和歌山県立博物館
 紀伊徳川家の威風 図録 同上
 霊宝館だより 150～154 高野山霊宝館
 子規博だより 163～165
 松山市立子規記念博物館
 萩 115～118 山口県立萩美術館・浦上記念館
 館報 37 熊本市立熊本博物館
 REIMEI 43-1～43-4
 鹿児島県歴史・美術センター黎明館

7. 令和8年度の展示予定

展示場所は成田山平和大塔1階霊光殿。企画展示の概要および展示期間は以下の通り。

【霊光殿】

収蔵品コレクション 追善絵 3/7 - 6/7

歌舞伎役者などの著名人が亡くなった時に、訃報と追善を兼ねて浮世絵が摺られる。これらは江戸後期から幕末にかけて多数制作された。なかでも7代目団十郎・8代目団十郎は多くの作品がある。それらから両者の人気ぶりを紹介する。

成田山いろいろ 6/13 - 9/6

当館は成田山信仰に関連する様々な資料の収集につとめている。その中には珍品と称するものもある。成田山信仰の広がりから生まれた産物といえる。収集活動を通じて得た貴重な成果を紹介する。

俱利伽羅不動 9/12 - 12/7

災厄を切り裂く不動明王の利剣に、俱利伽羅龍王が巻き付いた姿は、不動明王の化身と崇められてきた。この俱利伽羅不動は成田不動尊信仰の普及の象徴ともいえる。俱利伽羅不動と成田山との関連を紹介する。

成田山ゆかりの人々 1/1 - 3/7

江戸時代から近代にわたり成田山を信仰・守護した人物（僧侶・武士・文化人）を紹介。

※令和10年の成田山開基1090年祭記念事業にともなう工事により展示が変更になることもあります。

8. 研究報告

石川照勤宛与謝野寛書簡

矢嶋 毅之

与謝野寛（号は鉄幹、1873-1935）は明治6年に京都に生まれ、山口県で教員を勤めた後、明治25年11月上京し、落合直文の門に入った。明治29年に歌集『東西南北』を刊行、さらに翌年歌集『天地玄黄』を世に出すと、その質実剛健な作風は「ますらおぶり」と呼ばれた。そして、明治32年に東京新詩社を創立、翌年機関誌『明星』を刊行した。『明星』は、浪漫主義文学運動の中核となり、与謝野晶子（1878-1942）、北原白秋、石川啄木、吉井勇らの作品が掲載された。

今回紹介する書簡は、鉄幹が明治34年2月26日付で石川照勤（1869-1924）に宛てたものである。石川照勤は当時成田山新勝寺の住職である。照勤上人は明治27年1月に住職に就いたが、同31年3月に欧米の宗教・社会状勢を学ぶために日本を離れた。そして同33年4月に帰国し、その後海外で学んだ知見をもとに成田山及び成田の発展に尽くした。書簡の全文は以下のとおりである。

拝復、先般ハ新詩社基本金として金拾円也御戴贈を忝候、御厚情のほど千萬奉謝候、小子久しく病氣致候為め御礼状も不差上、却て御手数相掛候事汗顔此事に奉存候、「明星」ハ益刷新の考にて本月ハ休刊致し三月早々体裁を改めて出版可仕候、維持の方法もどうやら完成致すべき見込に御座候、右延引なから御礼之為め病中乱筆御高怒被下度候、猶この上とも新趣味普及の上に御助成奉願上候、草々拝復

二月廿六日 与謝野寛
石川上人猥下

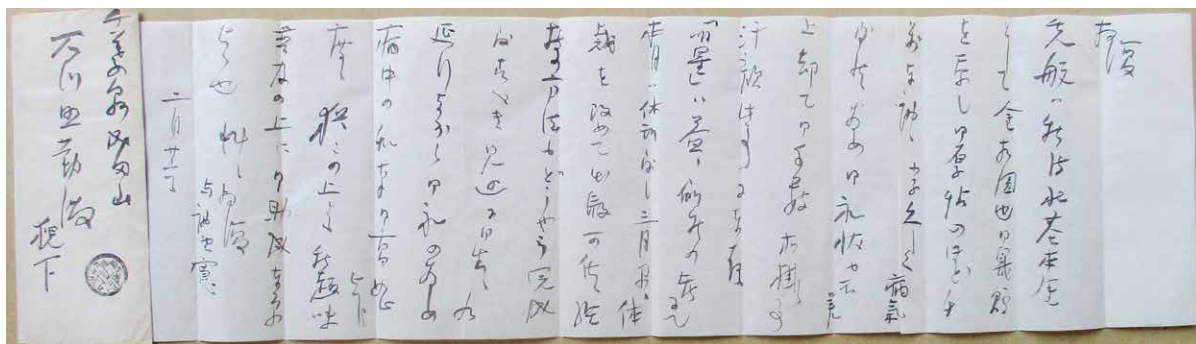
この書簡は新詩社が募集した新詩社基本金の募集に照勤上人が応じたことへの謝意等が記さ

れている。華やかにスタートした『明星』であるが、資金難の問題が露呈した。そこで『明星』第10号（明治34年1月1日）に新詩社の基礎を堅固にするため、新詩社基本金として応分の醸金を募ることを表明した。その後『明星』第11号（同34年3月15日）に「新詩社基本金醸出第1回報告」として募金に応じた80名の氏名（または団体名）が掲載され、照勤上人の名も確認できる。支援を得た方への御礼状というわけだが、鉄幹の近況も記されている。書簡によると、鉄幹はしばらく療養していたようで2月に発行予定であった『明星』第11号を取り止めて、3月早々に体裁を改めて刊行すると伝えている。実際、『明星』第11号は3月15日刊行された。また書簡には「維持の方法もどうやら完成」とあり、新詩社の経済的安定に目途がたったようであるが、この後『明星』第12号の発行は5月にずれ込んだ。

周知のとおり、この頃鉄幹はプライベートな問題でいささか多忙であった。前年8月に後の妻となる鳳晶子に出会うとしばらくして妻林瀧野との別れ話が始まり、翌年5月離婚し、晶子と一緒にいる。さらに、この間、正岡子規との論争、この書簡を出した後、鉄幹誹謗の文書が流布されるなど、とても落ち着いて創作活動に集中できる環境ではなかったと思える。こうした当時の鉄幹の周囲の状況を踏まえると、この書簡は当時の鉄幹の心情を考えるものとなりはしないか。

【参考文献】

永岡健右『与謝野鉄幹伝』（桜風社、1984年）
逸見久美編『与謝野寛晶子書簡集成』第1巻（八木書店、2002年）
『与謝野鉄幹与謝野晶子集』（筑摩書房、1968年）



歌川国貞筆「成田山棟揚図」の 開板について

猪岡 萌菜

歌川国貞（三代歌川豊国。1786-1865）の「成田山棟揚図」（以下、「棟揚図」）【図1】は、画中に記されている通り、成田山の堂の棟上に際し、七代目市川團十郎（五代目市川海老蔵）や、その息子の八代目團十郎をはじめとする役者たちが、幔幕を引き回した棧敷状の高い位置から餅や銭をまく様子を描いたものである。團十郎父子が描かれているのは成田山との深い縁に由来するもので、画面中央で右手に扇を持った紺の羽織袴姿が七代目、画面右の餅を乗せた大きな三方の後ろに、柿色の肩衣姿で立っているのが八代目である。

成田山に関わる主題であることが明らかな本図であるが、成田山諸堂のうち、どの堂の棟上を描いたものかは不詳である。改印は「米良」と「渡辺」の二印であるので、開板は嘉永4年（1851）と判断できる。中村恵美『八代目市川團十郎画像資料集 Ⅲ』（私家版、2019年）でも、開板時期はやはり嘉永4年に比定されている。しかし、この年に成田山上棟式を行なった堂宇は存在しない。

一方で、この当時成田山では安政の本堂、つまり現在の釈迦堂（以下、釈迦堂）の建立計画があった。『成田山新勝寺史料集』第2巻によれば、釈迦堂の落慶は安政5年（1858）であるが、天保12年（1841）から建立計画が進んでいた。天保12年閏正月に佐倉藩に本堂の建て替えを願い出、翌13年9月～10月に藩の検分を受けたものの、その後しばらく建立には着手されなかったようで、手斧始めが執り行われたのは嘉永6年9月であった。釈迦堂はそれから約5年をかけて落慶に至ったのであるが、その間成田山は資金調達に苦勞したようで、安政2年に居開帳、翌3年は江戸深川で出開帳、さらに翌4年に居開帳と、3年にわたり立て続けに開帳を繰り返している。

つまり、「棟揚図」は釈迦堂建立計画の進行中に開板されたわけだが、開板時期である嘉永4年は建立計画が「頓挫中」（中村前掲書、27頁）とみられ、現存史料からも、この時期の釈迦堂建立に関する動きは詳らかでない。

ではなぜ、そのようなタイミングで本図が開板されたのだろうか。そもそも、本図が釈迦堂建立に関

わる図とみなせるのかどうか、考えてみたい。

ここで注目したいのは、文政4年（1821）の七代目團十郎の金一千両寄進による額堂建立（翌5年12月上棟。「三升の額堂」や「第一額堂」と呼ばれたが、昭和40年（1965）の失火により焼失）を受けて、本図とよく似た「成田山額堂棟上之図」が描かれていることである。

「成田山額堂棟上之図」（以下、「額堂棟上之図」）【図2】は、四世鶴屋南北（「亀東」名義）の合巻『成田山御手の綱五郎』（文政8年初春刊）の上之巻冒頭の挿絵として収められており、初代歌川豊国（1769-1825）の筆による。その名の通り、七代目の成田山への額堂寄進をふまえて描かれたものであるのは明らかで、絵では足場を組んで三升の幔幕を引き回した高所から、役者たちが米や銭をまいている。画面右の餅を載せた三方の後ろに立ち、三升紋の肩衣を着けるのが七代目である。

2つの図はそれぞれ錦絵の三枚続きと、合巻の見開きという違いがあり、画中の役者の人数も異なるものの、餅と銭を載せた三方の後ろに立つ役者のポーズや、画面中央で扇を持って立つ役者のポーズが共通するのが見て取れる。国貞が「棟揚図」を描くにあたり、師である初代豊国の「額堂棟上之図」を参照したのは明らかであろう。初代豊国画で七代目の位置にいる役者が、国貞画では息子の八代目になり、七代目自身は年を重ねた五代目海老蔵として画面の中央に立つ点は、團十郎の名跡と血筋の継承を意識したものとも推察できる。

紙幅の都合で『成田山御手の綱五郎』の内容を詳しくは取り上げないが、全文は『鶴屋南北全集』第8巻（三一書房、1972年）に翻刻されており、同書所載の解説にある通り、「南北の「心謎解色糸」の世界に、成田山の利生記をからませて、それを弥次喜太の船中乗合噺で聞かせるという趣向」（552～553頁）である。冒頭では、歳末から年をまたいで鎌倉から成田山に参詣しに来た「うそつき弥次郎」「はらの喜太郎」両名が、元日の帰りの道中、無一文で行徳から船に乗る。船賃を工面するため、近松門左衛門の後胤を名乗り、七代目團十郎が成田山に額堂を建てたから、そこに額を納めるための寄進と称して人々から金を集めるといふエピソードが展開する。つまり、その後のエピソードの導入に、七代目の額堂寄進が一種の時事ネタとして取り入れられているのである。

『成田山御手の綱五郎』の刊行は額堂の上棟

から約2年後のことであり、江戸の人々にとって、成田山にまつわる時事的なトピックとして記憶に新しかったことだろう。そのような状況で、成田山の利生記を織り込んだ合巻の冒頭に額堂建立の話題が採り上げられ、「額堂棟上之図」も描かれたのである。

以上をふまえ、「棟揚図」の問題に戻ると、本図はやはり釈迦堂建立を意識して描かれたものと判断してよいと考える。先述の通り、本図が板行された嘉永4年時点では、釈迦堂建立に関する大きな動きはなかったものとみられるが、建立計画自体は天保12年から持ち上がっており、そうした事情は内外にある程度知られていたのではないか。かつて七代目が額堂を寄進した華々しい出来事と、それをふまえて描かれた「額堂棟上之図」を念頭に、ふたたび成田山の本堂が新たに建立されるのを見越し、いわばいずれ起こりうるであろう出来事を先取り

して描かれたのが、「棟揚図」なのだと考えられる。

浮世絵において、実際に起こったわけではない出来事を、あたかもそうであったかのように描いた作例は数多くある。役者絵の場合は、何らかの演目を、架空の座組として、実在する役者らの姿で描いた芝居絵が存在し、それらは「見立」と呼ばれる。大衆が期待するイメージ、こうだったら面白い、こんなシーンを見てみたい、という理想や願望が、画面の中に構築されているわけであり、絵画を受容する人々の関心や豊かな想像力が、このような絵画の需要を支えていた。

当代の人気役者たちが成田山の新たな本堂の上棟を祝う「棟揚図」も、いわば成田山新本堂建立に対する世の中の関心と、落慶の暁には額堂建立の時と同様に、團十郎が接待役を務める盛大な上棟式が行われるであろうという期待を背景に描かれたものと言えるだろう。



【図1】歌川国貞筆「成田山棟揚図」



【図2】歌川豊国筆「成田山額堂棟上之図」

成田山書道美術館



概要

当館は、書道文化向上と芸術普及の発展に資することを目的として、平成4年(1992)11月1日に開館。公益財団法人成田山文化財団を母体とする書の総合美術館で、成田山新勝寺に参詣される多くの方々の篤志により活動している。

収蔵品は、近現代の書作品を中心に古筆や古写経、中国の拓本なども充実しており、現在約7,000点を数える。展示は、あらゆる角度から書が楽しめるよう、毎回新鮮な展示を心掛けながら、年6～7回のペースで企画展を開催。

立地は、東京ドーム約3.5個分の面積を有する広大な日本庭園、成田山公園の一角に位置するため、四季折々の自然美と調和のとれた美術館となっており、作品とともに空間も楽しむことができる。

令和7年度事業報告

職員数 12名

兼任 2名(館長、課長)

常勤 5名(男1・女4)

非常勤 5名(嘱託1・パート4)

1. 展示事業

令和7年度、次の展示事業を行った。

- ・収蔵優品展 篆・隸・楷・行・草・仮名一書体をめぐる書の表現
- ・第41回成田山全国競書展
- ・幕末明治の下谷文人
- ・収蔵優品展 戦後日本「新しい書」のかたち
- ・赤井清美の仕事と明清の書
- ・書の公募展100年
- ・小企画 生誕150年歿後50年田中親美
- ・新春特別展 成田山の山水花鳥
- ・収蔵優品展 歿後50年赤羽雲庭

展覧会名称／期間	展示場／作品数	入館者数／開館日数
収蔵優品展 篆・隸・楷・行・草・仮名一書体をめぐる書の表現 2月22日(土)～4月20日(日)	1階/41点・2階/104点	2,575名/44日
第41回成田山全国競書展 4月1日(火)～4月20日(日)	1階/優秀作品341点	996名/18日
幕末明治の下谷文人 4月26日(土)～6月15日(日)	1・2階/86点	2,055名/45日
収蔵優品展 戦後日本「新しい書」のかたち 6月21日(土)～8月11日(月)	1・2階/105点	1,897名/45日
赤井清美の仕事と明清の書 8月23日(土)～10月13日(月)	1・2階/72点	2,030名/45日
書の公募展100年 小企画 生誕150年歿後50年田中親美 10月21日(火)～12月14日(日)	1・2階/90点	6,609名/48日
新春特別展 成田山の山水花鳥 1月1日(木)～2月15日(日)	1・2階/94点	3,708名/41日
収蔵優品展 歿後50年赤羽雲庭 2月21日(土)～4月19日(日)	1・2階/107点	1,294名/26日

展示要旨

収蔵優品展 篆・隸・楷・行・草・仮名一書体をめぐる書の表現
第41回成田山全国競書展

書体ごとにわけて幅広い時代の作品を展示した本展では、各書体の歴史を知ると同時に、表現の広がりを感じていただくことを企図していた。書愛好者層には現代作家からその背景にある古典まで合わせて見ていただけたことで満足感を得ていただけたのではないかと。

毎年この時期は、成田山公園では梅まつりが開催され、多くの方が来館される。本展でも散策のかたわらにご入館いただいたと思われる方も見受けられ、梅まつり期間に入館者数が伸びた。会期中は団体見学や研修会などのまとまった入館はなかったが、高校生・大学生などのグループでの来館が多数見受けられた。高校書道の教科書や各種書籍に掲載される拓本や古筆を複数展示したことから、書に関心のある学生には興味をもっていただける内容だったようだ。4月から1階は競書展に展示替えしたことで子供の入館者も増えた。結果として、大学生以下の入館が全体の10%を超え、この時期の展覧会としても2500人を超えるトップクラスの入館者数であった。

収蔵品が6700点を超え、展示の機会を作ることが難しい現状ではあるが、こうした幅広い分野、時代の書を収蔵する専門館の特色を出すことができる展示企画を今後も検討していきたい。(田村)



展示風景

幕末明治の下谷文人

NHK大河ドラマ「べらぼう」にあわせて舞台となる江戸の地で活躍した文人をテーマとした本展は、江戸後期から近代の収蔵品を誇る当館の特長を活かした展示となった。下谷周辺ではさまざまな階層の文人が交友し、詩文書画の交錯する世界のなかで文人的なひとなみを繰り返している。必ずしも著名な作家や作品ばかりとは言えないが、下谷をテーマに文墨に親しむ文人たちの書画を幅広く紹介できたものとする。

研究者や展覧会目当てに来館された方が一定数おり、一点一点じっくりと作品に見入る様子が見られた。近年は5月末から6月にかけても夏日が続き入館者数が伸び悩むが、書道の授業の一環で高校や大学の研修会など団体利用があったことで大幅な入館者数の減少は見られなかった。新学期が始まり、ちょうど良い時期なのかも知れない。団体解説の要望は積極的に受け入れていきたいと思う。(田村)



展示風景

収蔵優品展 戦後日本「新しい書」のかたち

戦後80年を迎えた今年、前衛書の先駆けとされる比田井南谷の「心線作品第一・電のヴァリエーション」が誕生して80年という節目でもある。本展は収蔵品を通じ、伝統派と革新派が互いに影響を受けながら「前衛」を志した書のありようを、俯瞰して見つめ直す好機となった。

メディアに比較的多く取り上げられた一方で、来館者数は伸び悩んだ。気象庁の記録に「東日本では統計開始以来、7月中旬として最高」とあり、今年の酷暑も一因と思われる。また、事前のプロモーション不足も否めない。会期中はSNSでの周知を積極的に行った。Instagramのデータ（7月14日～8月12日）によれば、閲覧数は14.2万回に達し、

新規フォロワーは136名増加した。フォロワーの閲覧数は前月比で44%増えており、特に月曜から水曜の午前中に閲覧が多い傾向にある。

2018年6月に開始した英語案内は徐々に定着しており、インバウンド（訪日外国人）の入館率は19%となった。関連事業については、6月22日（日）にギャラリートークを開催し、青森や栃木など遠方からも参加者を得た。また、7月23日（水）には子供向けの夏休み企画「大きな紙に大きな書!」を開催した。午前・午後ともに予約で満員となり、その様子はケーブルテレビで紹介された。

来館者数に対して図録の売れ行きは好調であった。7月3日の毎日新聞「書の世界」で9点の作品写真とともに取り上げられたことや、YouTubeチャンネル「書のひろば」で展示案内の機会を得たことが、大きく寄与したものと考えられる。（谷本）



展示風景

赤井清美の仕事と明清の書

長く公募展に参加しないフリーの立場をとり続けた赤井氏の展覧会は、関連団体による動員が見込めず入館者の伸びが心配されたが、それは杞憂に終わった。書壇に属さない立場にありながら、自らが編著した『行草大字典』『篆隸字典』などのベストセラー本で広く現代の書愛好者の啓蒙を続けた赤井氏の仕事に多くの人々が関心を寄せていたのだろう。75%を有料入館者が占めるという入館割合からもその関心の高さが感じられた。

生前の自選による寄贈作品の展示は、書の故郷中国で何度も大規模な個展を重ねた実力が確かなもので、見学者は一様にその書域の広さと深さに満足したという感想が繰り返し得られた。受贈記念として計画していた展覧会が氏の急逝により遺作展となってしまったことは残念の極みであるが、現代

の書に大きな影響を与えた作家の企画展が開催できたことは、意義あることと考えている。

今回同時に寄贈された中国明清時代の作家のコレクションは、前出の字典で書例としても掲載される優品が揃っており、中国作品の収蔵が薄かった当館にとって待望のコレクションだといえるだろう。今後も当館の展示に一段と光彩を与えてくれるに違いない。（山崎）



展示風景



書の公募展100年

小企画 生誕150年歿後50年田中親美

大正14年（1925）に初の書の公募展とされる日本書道作振会展が開催され、今年で100年になる。日展や毎日書道展、読売書法展などの受賞作を含む現代の書を多数収蔵する当館としては是非企画したい展覧会であった。100年を網羅する内容とはいかなかったが、一部の書壇に偏ることなく多様な作家、作品を紹介できた。近年の出品作は展覧会が終わるとその後見る機会が限られるため、来館者にとって貴重な機会になっただろう。

また、特別展示室で「小企画 生誕150年歿後50年田中親美一書家との交流を中心に」も開催した。親美が手掛けた複製本や親美製の料紙を用いた様々な書家の作品を展覧し、当館ならではの切り口で親美の仕事をあらためて回顧できた。小企画目当てに来館された方も見受けられ、本展にも

関心を寄せていただき、相乗効果も感じられた。

近年、11月の紅葉まつりイベントが定着し、この時期は1月を上回る来館者が訪れる。当館でも紅葉まつり協賛事業として無料開館日を設け、2日間限定イベントを開催しているが、そのイベントを抜きにしても本展示会は2500人程の入館があった。無料開館日を除く入館者の7割が有料でご入館いただいております。展示会の関心が高いことも実感できました。もちろん紅葉散策を兼ねてご来館いただけた方も多くいただろう。公園内に人が多いこの時期に書道体験など書の魅力を知っていただけるイベントを企画することも有益な方法かもしれない。今年は無料開館日に初めて書道体験を実施し、1日で100名以上の方にご参加いただき賑わいをみせた。その意味でも今回の入館者、イベントに関する結果は励みになる内容であった。(田村)



展示風景

新春特別展 成田山の山水花鳥

新年を祝う特別展として「成田山の山水花鳥」と題し、成田山新勝寺の宝物を中心に、当館の収蔵品からもテーマに相応しい作品を公開した。力強い水墨表現で風景や四季折々の花鳥を描いた狩野派の代表作をはじめ、詩歌を筆跡とともに楽しめる短冊や扇子など、約100点を展示した。特に短冊や扇子は公開の機会が少ない所蔵品であるが、書家だけでなく画家や俳人、政治家らによる幅広い書跡に触れられる展示会であった。

メインビジュアルに起用した狩野常信による繊細で華やかな「桐に鳳凰・牡丹に孔雀」のポスターは人目を引き、それをきっかけに来館した方も多かったようである。成田山への参拝後に、落ち着いた空間で心安らかに、清々しい気持ちで美術品を鑑賞していただきたいと願う。また、開基1090年祭に向けて、成田山の豊かな文化的土壌を多くの方に知っていただく機会となれば幸いである。

1月2日には、12時から15時にかけて「新春書

き初めイベント」を開催し、好評を得た。また、1月22日から25日にかけては「第八回成田高校附属小学校高学年書き初め展」を開催した。その様子は2月26日の千葉日報新聞でも詳しく紹介された。博学連携の一環として継続してきたこの取り組みも今回で最終回を迎えたが、児童たちは自他の作品を鑑賞しながら意見を交わし、成田山の宝物にも熱心に関心を寄せていた。会場では海外の方から児童へ「一生懸命練習していて素晴らしい。それぞれの夢を叶えてほしい」と温かいメッセージが寄せられる場面もあった。「書道」のユネスコ無形文化遺産登録への期待が高まるなか、有意義な締めくくりとなった。(谷本)



展示風景

2. 入館者数

	月別	入館者(開館日数)	1日平均
7年	4月	1,402名(23日)	60名
	5月	1,049名(27日)	38名
	6月	944名(21日)	44名
	7月	1121名(27日)	41名
	8月	792名(18日)	44名
	9月	913名(25日)	36名
	10月	1032名(22日)	46名
	11月	5,751名(25日)	230名
8年	12月	583名(12日)	48名
	1月	2,643名(28日)	94名
	2月	1,487名(20日)	74名
	3月	872名(19日)	45名
7年度合計		18,489名(268日)	68名

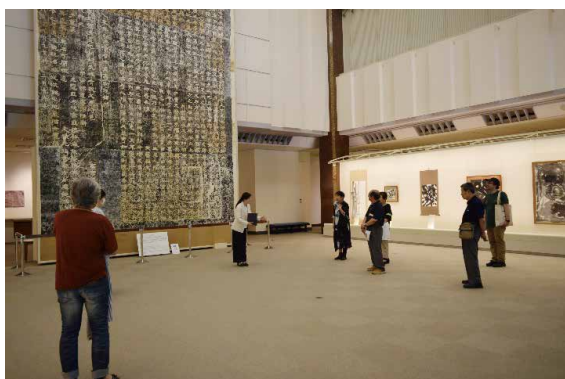
3. 普及事業

<展示広報>

- ・展示において、ポスター・案内はがき・展示目録を作成。各所への配布・掲示により、集客力の向上を図った。
- ・案内リーフレット（日本語・英語・中国語）を成田空港や空港周辺ホテルなど近隣施設に配架。
- ・新勝寺企画課と連携し、報道機関および関係施設へのプレスリリースを実施。

<講演会・ギャラリートーク・イベントほか>

- ・「収蔵優品展 戦後日本「新しい書」のかたち」当館学芸員谷本がギャラリートークを実施
6月22日（日）14時～



・「大きな紙に大きな書！」

当館学芸員谷本が書道体験を実施

参加者 小中学生16名

7月23日（水）10～11時、14～15時 二部制



・「赤井清美の仕事と明清の書」

当館学芸員山崎がギャラリートークを実施

8月31日（日）13時半～

9月15日（月・祝）13時半～



・新春書き初め体験

日本の年中行事である「書き初め」体験を企画した。色紙やうちわなどに新年の抱負や好きな文字などを揮毫していただいた。美術館入口にて開催。

1月2日（金）12～15時 参加者26名



・紅葉まつりイベント

紅葉まつりの協賛として11月22日、23日は無料開館。22日は書道用品店山口文林堂出店、篆刻体験、23日は書道体験を実施。書道体験参加者107名。



入館者数 4,098人（入館無料）前年比+344名
※昨年度まで開催していた「大昆虫展」「クラフト展」は中止

<成田山文化財団年報の発行>

- ・『戦後日本「新しい書」のかたち』 500冊
- ・『赤井清美の仕事と明清の書』 500冊

<成田山文化財団年報の発行>

「令和6年度 成田山文化財団年報 第15号」を3館（成田山仏教図書館・成田山霊光館・成田山書道美術館）合同で制作。PDFダウンロード方式。

<ホームページ>

充実したホームページの公開に努めるとともにSNSの即応性を利用した素早い広報（情報発信）により、書道愛好家への興味関心を促す。

URL：<https://www.naritashodo.jp/>



HP



Facebook



Twitter

<博物館実習生の受け入れ>

本年度は、次の大学より3名を受け入れた。
筑波大学 1名、二松学舎大学 1名、大東文化大学 1名

11月19日～11月24日

<新勝寺更生事業との協力>

市原刑務所の入所者更生のため、新勝寺僧侶の引率のもと当館を定期的に見学。学芸員による展示解説を行った。

<成田高校附属小学校との連携>

当館学芸員谷本が5・6年生の書道授業を担当（年次24時間）。なお、授業で制作された書作品は、当館会議室にて「書き初め展」として展示発表された（1/22～25）。美術館の企画展示の鑑賞も行った。



鑑賞の様子

<奈良市杉岡華邨書道美術館との連携>

当館所蔵の江戸の書画を奈良市杉岡華邨書道美術館に貸出し、「江戸の書画－うつすしごと②貫名菘翁を中心に」展を開催。当館学芸員高橋を講師として書道文化講座を実施。

演題「菘翁と富士山」9月6日（日） 14時～



展示風景

<研修見学>

教育機関との連携授業および書道関係などの団体見学があり、学芸員による展示解説を行った。

- ・あずさ第一高校 62名 5/30、6/11
- ・大東文化大学書道学科 81名 6/1、7/6
- ・心美会 55名 6/1
- ・東京情報大学後援会 39名 6/21
- ・成田山はぼたん日曜学校 28名 6/29
- ・成田ロータリークラブ 13名 7/6
- ・黒潮書道会 6名 7/15
- ・大東文化大学書道部 47名 7/20
- ・淡水会 22名 8/23
- ・千葉県高等学校教育研究会 49名 8/26
- ・富里ロータリークラブ 14名 8/26
- ・八千代市教育研究会小中書写教育部会 27名 9/17

- ・淡水会芹先生一行 26名 9/17、9/27
- ・東京書学アカデミー 29名 9/28
- ・筑波大学書領域 18名 9/30
- ・高崎市書道協会 47名 10/7
- ・成田市生涯大学院 13名 10/7
- ・日本オーチス・エレベーター 20名 11/8
- ・阿佐ヶ谷北一丁目町会 24名 11/18
- ・川島町書道愛好会 24名 11/18
- ・厚木市書道協会 32名 12/5
- ・付属小学校5・6年生一行 69名 1/23
- ・埼玉県中央書道人連盟 35名 3/1

<展示場の貸出>

国際ロータリー第2790地区に特別展示室を貸出し「八犬伝プロジェクト～南総里見八犬伝～宮田雅之と清水英寿」を開催。

6月21日～8月11日

<会議室・研修室の貸出>

当館では、2階会議室及び研修室を地域文化の発展を目的に書道だけでなく芸術全般に関する発表や創作の場として提供している。

令和7年度の主な利用団体および個人

- ・玉成会かな教室
- ・渡貫書道教室
- ・爽風会書道教室
- ・成田写真会
- ・不動の庭で遊ぶ会（俳句）
- ・京都屋。
- ・笑鄰会
- ・藤の会
- ・where there be dragons
- ・ロータリークラブ
- ・松元ヨガ教室
- ・千葉県書道協会
- ・(株)シュテルン成田
- ・日本伝統俳句協会関東支部
- ・松声会
- ・笹鳴俳句会
- ・かつらぎ俳句会
- ・いには俳句会
- ・成田高校付属小学校書き初め展
- ・はばたん幼稚園年中組作品展

4. 収蔵資料（8年3月31日現在）

- ・作品数 6,986件
- ・図書数 9,395冊

【寄贈作品・資料】

次の方々より、貴重な作品をご寄贈頂きました。ここに、厚くお礼申し上げます。

作品・資料名	寄贈者
・河野隆作品97件	河野妙子氏
・星弘道作品10件	星弘道氏
・青山杉雨ほか作品14点	現代書作家協会
・日下部鳴鶴ほか作品12点	日下部裕氏
・宇野雪村作品12点	宇野公容氏
・小林抱牛作品2点	小林康真氏
・鈴木梅溪作品3件	川内由美子氏
・副島種臣作品1件	諏訪間陽子氏
・大澤竹胎作品77件	中津雅美氏
・赤羽雲庭作品9点	植木靖子氏

【貸出作品】

- ・奈良市杉岡華邨書道美術館「日本芸術院賞受賞記念 高木厚人展」へ
高木厚人作品2件
- ・豊田市博物館「岸田吟香没後120年岸田吟香と岸田劉生一近代、それは東洋にあり」へ
岸田吟香作品ほか13件
- ・大阪・関西万博「白と黒の伝統 書と囲碁の世界」へ
石飛博光作品1件
- ・奈良市杉岡華邨書道美術館「江戸の書画一うつすしごと②貫名菘翁を中心に」へ
作品12件
- ・京セラ美術館「第60回現創会展」へ
古谷蒼韻作品ほか22件
- ・徳島県立文学書道館「高木厚人展」へ
高木厚人作品2件

【寄贈図書】

個人や団体など各方面の方々より、図書資料のご寄贈がありました。ここにご芳名を記し、お礼申し上げます。

図書名	寄贈者
-----	-----

第63回藍筍会書作展図録

藍筍会

會津八一とコレクション—博士の愛した中国美術— 會津八一記念館
 會津八一記念館50年の歩み 同上
 第70回現代書道二十人展 朝日新聞社
 新井光風作品集Ⅲ 新井光風氏
 近代日本画の神髓 児玉希望—千変万化、驚異の筆力展 石井裕一郎氏
 一東 578-589号 一東書道会
 市立市川考古博物館館報第52号 市立市川考古博物館
 令和5年度 市立市川歴史博物館館報 同上
 出光美術館研究紀要第30号 出光美術館
 出光美術館館報200、201 同上
 伊能忠敬記念館年報第27号 伊能忠敬記念館
 いわき市立美術館ニュース ザ・ギャラリーNo.79 いわき市立美術館
 戦後日本美術総集V 麗人社
 新潟県文人研究 第28号 越佐文人研究会
 黄檗文華第144号デジタルブック 黄檗山萬福寺文華殿黄檗文化研究所
 大洗町幕末と明治の博物館報 第13、14号 大洗町幕末と明治の博物館
 昭和書碑林 小川艸岑氏
 崑山会報 53、54号 崑山会
 道風記念館だより74-77号 春日井市道風記念館
 刻された古代日本の書 同上
 社報『香取』127、128号 香取神宮崇敬会
 鎌ヶ谷市郷土資料館だより第71-74号 鎌ヶ谷市郷土資料館
 百万塔 181-183号 紙の博物館
 書統598、601、603 萱原書房
 今日の書学674-683号 今日の書学社
 抜萃のつゞり その八十五 クマヒラ・ホールディングス
 黒川古文化研究所紀要 古文化研究 黒川古文化研究所
 文雅の典範 清朝盛世の書画 同上
 群馬の森 美術館ニュース201-204 群馬県立近代美術館
 墨294-299号 芸術新聞社
 現創会展六十年の歩み 現創会展六十年の歩み」展実行委員会
 第118回日展作品集 公益社団法人日展
 若木書法24 國學院大學

2024年度五島美術館研究紀要第13号 五島美術館
 ことのは85-92 言の葉ミュージアム徳島県立文学書道館
 月例『東華』千号達成記念誌 齊藤華秀氏
 香取秀真の眼 佐倉市立美術館
 深沢幸雄展—彫版に依って歌う詩人 佐倉市立美術館
 後京極良経公和漢朗詠集 嵯峨切 里海有清堂
 藤原定頼卿和漢朗詠集 山城切 同上
 特別展 夢—歌会始御題によせて— 式年遷宮記念神宮美術館
 奈良朝写経（『薬師寺聖教調査報告書 第二輯 聖教Ⅰ』抜刷） 宍戸香美氏
 修美No.151-153 修美社
 高森碎巖—長南に生まれた最後の南画家— 城西国際大学水田美術館
 書海1208-1219 書海社
 書声817-828 書声会
 第64回書象展作品集 書象会
 日本書法vol.59、60 書道芸術社
 書道日本No.875-885 書道日本社
 書星 950-961号 書星会
 第73回書星展作品集 同上
 白井市郷土史の会機関誌『たいわ』40号 白井市郷土史の会
 白井市郷土資料館開館30周年記念企画展図録「小金牧と白井」 白井市郷土資料館
 鈴木竹影作品集 鈴木毅氏
 鈴木竹影先生遺作集 同上
 第47回墨華書道展作品集 墨華書道研究会
 美術の窓No.500-511 生活の友社
 第53回日本の書展 全国書美術振興会
 全書芸897-907号 全日本書芸文化院
 書教801-812号 全日本書道教育協会
 第38回全日本篆刻連盟展 全日本篆刻連盟
 全日本美術No.840-845 全日本美術新聞社
 北光 762号 創玄会
 創玄 135-137号 創玄書道会
 袖ヶ浦古墳大辞典—袖ヶ浦の古墳時代— 袖ヶ浦市郷土博物館
 袖ヶ浦市史研究 第22号 同上
 村とくらしと—大事—江戸時代の事件記録をよむ— 同上
 大東書学第25号 大東文化大学書道学会

書道研究所紀要 大東書道研究 32号
 大東文化大学書道研究所
 書道研究所所報 桐墨 第16号 同上
 大東書道663-675号 同上
 書道学論集第22号
 大東文化大学大学院文学研究科書道学専攻
 令和6年度文学研究科書道学専攻修士論文・修
 了作品 博士論文 研究集録 同上
 源氏礼讃 高木厚人展 高木厚人氏
 正筆1109-1120号 正筆会
 館山市立博物館報 ミュージアム発信伝 99号
 館山市立博物館
 没後100年記念企画展図録 資生堂創業者 福
 原有信と館山 同上
 令和7年度企画展 東京湾要塞と館山 同上
 田原市博物館研究紀要第14号・田原の文化第48
 号 田原市博物館
 千葉県誕生150周年記念誌
 千葉県環境生活部スポーツ・文化局文化振興課
 第2次千葉県文化芸術推進基本計画 同上
 千書協会報94、95号 千葉県書道協会
 第70回記念千葉県書道協会展記念誌 同上
 ちばの博物館152、153号
 千葉県博物館協会事務局
 第74回県展 千葉県美術会
 しいむじな85-88号 千葉県立中央博物館
 令和7年度特別展 房総うみの幸 大百科—千
 葉の豊かな海と食文化— 同上
 千葉県立美術館年報No.50 令和5年度
 千葉県立美術館
 オランダ×千葉 撮る、物語る—サラ・ファ
 ン・ライ&ダヴィット・ファン・デル・レーウ
 ×清水裕貴
 千葉県立美術館
 令和7年度企画展「鉄絵銅彩 神谷紀雄陶展
 春風陶花」図録 同上
 没後50年高島野十郎展 同上
 しおさいNo.208、209、210、211
 千葉県立美術館友の会
 令和7年度企画展「房総の海辺のムラ—漁撈か
 ら見た人々のくらし—」展示解説書
 千葉県立房総のむら
 江戸の名プロデューサー 蔦屋重三郎と浮世絵
 のキセキ 千葉市美術館
 千葉美術散歩 同上

無縁寺心澄 千葉市美術館所蔵品目録 同上
 中日会報215-217号 中部日本書道会
 新編 新しい書写 一・二・三年 東京書籍
 書道I 同上
 2025独立行政法人 国立文化財機構 東京文化
 財研究所 概要 東京文化財研究所
 美術史学第46号
 東北大学大学院文学研究科美術史学講座
 書道特別展 書の魔術師 殿村藍田
 徳島県立文学書道館
 徳島県立文学書道館研究紀要 水脈 第21号
 同上
 書道特別展「小坂奇石 ベストセレクション」
 併催・県内書家作品展「奇石の言葉を書く」
 同上
 書道特別展 高木厚人 仮名で景色を創る同上
 独立広報第137、138号 独立書人団
 豊田市博物館開館一周年記念 岸田吟香没後
 120年 岸田吟香と岸田劉生—近代、それは東
 洋にあり—
 豊田市博物館
 扉〜第24回北区内田康夫ミステリー文学賞受賞
 作品〜 豊田旅雉氏
 第2回 書で巡る まほろば展 図録
 奈良市杉岡華邨書道美術館
 第1回なら華邨賞図録 同上
 成田山教育福祉研究会 成田山新勝寺
 法談 71号 同上
 深川不動尊だより 慈眼 125-128号
 成田山東京別院深川不動堂
 名古屋成田山 850-861号
 成田山名古屋別院大聖寺
 成田市の文化財 第56集 成田市教育委員会
 資料館だより第17号
 成田市下総歴史民俗資料館
 成田市史研究49号 成田市立図書館
 新潟県人物伝 會津八一
 新潟市立會津八一記念館
 令和7年度 二松学舎大学 卒業書作展作品集
 二松学舎大学
 日展ニュースNo.190-192 日展
 日本近代文学館No.325-330 日本近代文学館
 二〇二五 伝統と創意 第79回日本書芸院展作
 品集
 日本書芸院

明日への記録－世界のSHODOへ－ 同上
 民藝 870号 日本民藝協会
 野田市郷土博物館 市民会館 年報・紀要 第
 17号 2023年度 野田市郷土博物館
 野田の浅間様～医師に刻まれた富士山への祈り～
 同上
 Art annual 2026 美術年鑑 令和8年版
 美術年鑑社
 美じょん新報307-311号 ビジョン企画出版社
 書法漢學研究第37号 兵庫県立美術館
 書法叢刊 2024、6 同上
 2021年コレクション展Ⅰ小企画「穎川コレク
 ション・梅舒適コレクション受贈記念展」
 同上
 2023年コレクション展Ⅰ特集2 中国明清の書画
 篆刻－梅舒適コレクションの精華－ 同上
 2024年コレクション展Ⅲ小企画 生誕180年記
 念 呉昌碩の世界－海上派と西冷名家－ 同上
 ふくやま美術館・ふくやま書道美術館 研究紀
 要 第12号
 ふくやま美術館・ふくやま書道美術館
 ふくやま美術館・ふくやま書道美術館 年報
 2023年度▶2024年度 同上
 仏教タイムス3078号 仏教タイムス社
 文化財保存修復学会誌 vol.68
 文化財保存修復学会
 豊道春海顕彰会会報第22、23号
 豊道春海顕彰会
 現代の書新春展 今いきづく墨の華
 毎日書道会
 2025大阪・関西万博 白と黒の伝統－書と囲碁
 の世界－ 毎日新聞社
 幕田魁心の書－伝統のその先へ－
 幕田魁心氏
 三井美術文化史論集第18号 三井記念美術館
 国宝 熊野御幸記と藤原定家の書－茶道具・か
 るた・歌仙絵とともに 同上
 三井記念美術館20年のあゆみ 同上
 書Ⅰ 光村図書
 港区立郷土歴史館 研究紀要3
 港区立郷土歴史館
 港区立郷土歴史館館報4、5 同上
 書道雑誌文献目録（第四集） 宮澤昇氏
 津金雀仙書話 同上
 文人政治家の書 明德出版社

由源678-688号 由源社
 万年筆の旅 vol.24 吉村昭記念文学館
 令和7年度企画展 吉村昭と「文学者」 同上
 読売書法会会報第85号 読売書法会
 国府台 和洋女子大学文化資料館・博物館学課
 程報告 28・29号 和洋女子大学文化資料館
 神奈川近代文学館年報・紀要2024年（令和6）
 神奈川近代文学館
 神奈川近代文学館 第168、169、170、171号
 同上
 西冷印社日本名誉社員作品展－呉昌碩胸像寄贈
 45周年記念－
 西冷印社日本名誉社員作品展実行委員会
 小野竹喬から猪熊弦一郎、李禹煥まで リトグ
 ラフで辿る アトリエMMGの33年
 早稲田大学會津八一記念博物館
 書の美 278-289号 日本書学研究会
 書のある散歩道かながわ－神奈川書碑探訪－
 澤田博史氏

5. 調査・研究

- ・館蔵作品及び各展覧会開催に伴う調査。
- ・成田山新勝寺および周辺財団で所蔵する美術資料の調査。
- ・学校や地域との連携に関する調査・研究。
- ・書に関する広汎な研究。

6. その他

<売店について>

館内受付協の売店（ミュージアムショップ）では、文房四宝・各種書道用具をはじめ書籍や展示図録などを販売。受付に申し出ることにより売店のみの利用も可能。



令和8年度事業予定表

1. 展示事業

展覧会名及び概要		開催期間
1	収蔵優品展 明治大正の書 明治から大正にかけて日本の書の世界は大きな転換期を迎えた。大陸の書を基礎として、数々の作家が特色ある活動を繰り広げている。中林梧竹や日下部鳴鶴、巖谷一六といったこの時代を代表する作家だけでなく、政治家や漢詩人、歌人など、当時の文化環境に根ざした人々の作品も展示する。	8年 4月28日(火)～ 6月14日(日)
2	読んで、観る 文字を素材とする書作品は、多くの意味内容が表現されている。書き手自身の言葉や自詠の歌、好む文字や内容に共感する詩や歌など、選文は書き手の人間性が如実に現れる。一点一点内容を読みながら作品鑑賞を楽しんでいただく展覧会。	6月23日(火)～ 8月9日(日)
3	福田丞洲展／千葉県書道協会役員展／小企画 館蔵の拓本 叔父浅見喜舟の率いた書星会を支え、戦後の千葉の書の中核を担った福田丞洲の書業を回顧する。あわせて約80年の歴史を刻む千葉県書道協会の役員展を併催し、戦後の千葉の書の魅力に迫る。また小企画として当館収蔵の拓本から優品を紹介する。	8月25日(火)～ 10月12日(月)
4	成田山書道美術館の名品－いつもは展示しない箱書や極札などを添えて 普段はなかなか展示する機会のない箱書や極札、跋文や附属の手紙など。けれどもそういった付き物からわかる作品の伝来や評価などを知ると作品の理解が深まりもっと面白い。天平写経から現代まで幅広い時代の書を附属品とともに展示する。	10月20日(火)～ 12月13日(日)
5	新春特別展 成田山の美術－七条袈裟を中心に 940(天慶3)年、寛朝大僧正の開山に由来する大本山成田山新勝寺は、令和10年に開基1090年を迎える。その長い歴史の中で、成田山に伝わる美術品の数々は、信仰の証として大切に護持されてきた。本展では、令和3年の新春特別展から公開を始めた成田山の「七条袈裟」を特集する。	9年 1月1日(金)～ 2月14日(日)
6	収蔵優品展 生誕110年伊藤鳳雲と仮名の名品 鳳雲は、平安古筆はもとより、漢字の書の学習をも背景に爽やかに明るい仮名作品を手掛けた。本展では、鳳雲の生誕110年を記念して作品と座右の品々を展示する。あわせて当館所蔵の平安から現代までの仮名の名品を紹介する。1階展示場では、4月から第43回成田山全国競書展を開催する。	2月23日(土)～ 4月18日(日)

※展覧会名、開催期間については、変更となる場合があります。

2. 普及事業

- ・展示に関連する講演会や解説会の開催。
教育や福祉機関などとの連携。
- ・書道や芸術の啓蒙活動のため、研修室や会議室などの施設貸出。
- ・展示に係わる、ポスター・案内ハガキ・陳列目録の発行および発送。

3. 調査・研究

- ・館蔵作品及び各展覧会開催に伴う調査。
- ・成田山新勝寺および周辺財団で所蔵する美術資料の調査。
- ・学校や地域との連携に関する調査・研究。
- ・書に関する広汎な研究。

寄付金のお願

成田山書道美術館は、平成4年11月に開館し主に近・現代の書作品を中心に収集し、それらを基に展示普及事業を行い、平成25年3月には、これまでの書道文化振興に資する役割が評価され、成田山文化財団を構成する成田山仏教図書館・成田山霊光館とともに、公益財団法人に認定されました。

今後も老朽化した施設整備を図りつつ、皆様のご期待に添えるよう、魅力ある美術館として活動してまいりますので、温かいご支援をお願いいたします。

【寄附を必要としている事業】

建物・施設整備事業

調査・研究事業

その他、成田山書道美術館の事業運営に係る事業

【寄附単位】

法人 1口 50,000円

個人 1口 10,000円

【特典】

- 1口につき招待券（個人10枚、法人50枚）を進呈いたします。
- 成田山文化財団報にご芳名を掲載し、進呈いたします。※掲載の許可をいただいた方のみ
- ご寄付が10口以上の法人及び個人には感謝状を贈呈いたします。

【申込方法】

所定の「寄付金申込書」(ホームページよりダウンロード)にご記入の上、下記宛てにお申込みください。

【申込受付】

〒286-0023 千葉県成田市成田640

公益財団法人 成田山書道美術館

総務課 寄附金担当

TEL.0476-24-0774 FAX 0476-23-2218

【払込方法】

払込取扱金融機関にて下記の銀行口座への払込をお願いいたします。なお、振込手数料のご負担をお願いいたします。

京葉銀行 成田支店 普通 No.5883361

ナリタサンショドウビジュツカン カンチャウ
タナカ ショウコウ

成田山書道美術館 館長 田中照広

現金でのご寄付は、直接ご持参ください。

【税制の優遇】

当館は、税法上の優遇措置対象となる「公益財団法人」となっており、所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。確定申告時に当館が発行する寄附金受領証明書を税務署に提出してください。詳細については、お近くの税務署にお問い合わせください。

【個人情報の取扱い】

成田山書道美術館が取得した皆様の個人情報は、行政庁への申請書、ご寄付のお願い、当館のお知らせなどの送付以外に利用したり、本人の同意がなく第三者に提供することはありません。

また、取得した個人情報は漏洩・損失・紛失・改ざん・不正利用などを防止するため、法令、指針に従って必要な措置を講じ、個人情報を適切に管理いたします。

【注意事項】

お申込み予定日より10日以内にご入金のない場合、お申し込みはキャンセルとさせていただきます。

理由の如何に問わず寄付後の払い戻しはいたしません。

令和7年度寄付者

●現創会

●村山智子氏

上記の方々をはじめ3件の貴重なご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。

案内図・利用案内



成田山仏教図書館

開館時間：9時～17時

休館日：毎週、日・月・木曜日・国民の祝日（但し、日・木曜日については、電話によるレファレンス・閲覧予約等によるご来館は可能。）

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩15分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩5分

位置：成田山大本堂左手、聖徳太子堂下

○住所・連絡

〒286-0024 千葉県成田市田町312番地
電話 0476-22-0407 Fax 0476-24-4465

成田山霊光館

開館時間：8時30分～16時30分

休館日：月曜日・国民の祝日

展示は、成田山平和大塔1階霊光殿にて開催（6時～16時・無料）。

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩20分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩15分

位置：成田山平和大塔の後方

○住所・連絡

〒286-0021 千葉県成田市土屋238番地
電話 0476-22-0234 Fax 0476-22-0242

成田山書道美術館

開館時間：9時～16時（入館は15時30分まで）

休館日：月曜日

（祝日の場合は開館し、翌平日が休館）

入館料：大人 500円（300円）

高・大学生 300円（200円）

中学生以下無料

（※カッコ内料金は団体20名以上）

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩25分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩10分

位置：成田山公園内、三ノ池の畔

○住所・連絡

〒286-0023 千葉県成田市成田640番地
電話 0476-24-0774 Fax 0476-23-2218

令和7年度 成田山文化財団年報 第17号

発行日 令和8年(2026)4月30日
編集発行 公益財団法人 成田山文化財団
連絡先 成田山書道美術館
〒286-0023 成田市成田640
Tel 0476 (24) 0774
